

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA41S013	生涯学習入門(Introduction to the theory of Lifelong Learning)					全学共通科目 導入・転換	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1・2・3・4	教・経・福	前期	月2	氏名 岡田 正彦(教マ)  E-mail msokada@oita-u.ac.jp 内線 7647									
授業の概要	大学生という時期は、学校教育を中心とした受動的学習スタイルの最後の時期であり、「自己主導的学習」や「成人教育」に向け学習スタイルを自発的・積極的なものに転換すべき時期でもあります。しかし、一般的には、高校までと同じスタイルで学ぼうとし、卒業後は自主的に学べない人が多いのが実情です。この授業では、生涯学習の理論の基礎を知るとともに、ライフデザインと学習を関連づけ、身近な生活(家庭生活や社会生活、学校での生活など)の中で自分がどのような学習を行っていくかについて展望を持ってもらいたいと思っています。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	生涯学習に関する基本的事項を理解すること。														
目標2	自らの生涯学習の展望を具体的に記述すること。														
目標3	生涯学習を行っていくために必要な態度や知識、技術などについて理解しその向上に取り組むこと。														
目標4	ライフデザインの概念を知り、自らのライフデザインについて具体的に記述すること。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	これまでの自分の学習経験の評価と経験交流ワークショップ														
2	生涯学習のコンセプト(1)生涯学習の考え方、現代社会における意義														
3	生涯学習のコンセプト(2)フロント・エンド・モデルと継続モデル														
4	生涯学習社会の理念と構想														
5	生涯学習のまちづくり施策の動向														
6	生涯学習のまちづくりワークショップ(1)まちづくり事例の収集・提示														
7	生涯学習のまちづくりワークショップ(2)まちづくり事例の交流														
8	生涯学習と学習者(1)学習者のタイプ、成人学習者の特性														
9	生涯学習の学習者(2)成人学習者の課題														
10	生涯学習の支援者・指導者(1)学習のプロセスと支援														
11	生涯学習の支援者・指導者(2)支援者の類型とその養成														
12	生涯学習の機会														
13	生涯学習の方法・形態														
14	ライフデザイン検討・交流ワークショップ(1)ライフデザインの作成														
15	ライフデザイン検討・交流ワークショップ(2)ライフデザインの交流とそのフィードバック														
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ッ プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	「生涯学習のまちづくり」について自分のふるさとなどの事例を持ち寄り、どのようなまちづくりをどのような方法で行うことが望ましいか交流しつつグループとしての案を作成する。自らのライフデザインについて検討し、その展望を他のメンバーと交流する。				工 夫 そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストの各章について事前に目を通して内容を確認しておく(8時間)。													
	事後学修	授業で紹介した事例やデータなどをさらに探索し、それを期末レポートの中で活用する(5時間)。													
教科書	佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。ISBN978-4-571-10138-0														
参考書	授業の中で紹介します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	ライティング	20%													
	ワークショップ	40%													
	期末レポート	40%													
注意事項	授業では、グループワーク(GW)や担当教員からの質問に対し、積極的に関与することが求められます。遅刻や私語に対しては、厳しく対処します。														
備考															
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
AA42G114		福祉テクノロジー入門(Technology of Helping People with Special Needs) *大分を創る科目					全学共通科目 福祉・地域	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水1	氏名 池内 秀隆(医) E-mail hikeuchi@oita-u.ac.jp 内線 7944						
授業の概要	高齢社会の到来とともに、それらの問題を解決する取り組みが重要性を増し注目されています。この講義では福祉に関する工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、福祉分野における機器利用・工学的手法の役割や重要性を認識することをねらいとしています。バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を見かけることが増えました。これらの考え方や身近に応用されている福祉の工学技術を紹介し理解を深めます。また、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介します。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学びます。これらを普及していくために産業との関連や制度・政策に関連する項目も紹介します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	福祉とテクノロジーに関する正しい認識を判断できる。											
目標2	障害や高齢に対する福祉テクノロジーに関する説明に対し正しい語句を示すことができる。											
目標3	福祉機器に関する特徴や仕組み、用途などを述べるができる。											
目標4	福祉テクノロジーに関する誤解や問題点を述べ、考察することができる。											
目標5	各授業での説明について簡潔に要点をまとめることができる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	障害とは何か、障害の種類											
2	障害に対する誤解、福祉関連工学の歴史											
3	福祉工学とはなにか、バリアフリー											
4	バリアフリーにおける問題点等、ユニバーサルデザイン											
5	共用品、身近な福祉関連技術のメリット・デメリット											
6	情報機器のアクセシビリティ											
7	障害と福祉機器											
8	福祉機器の課題と障害の詳細											
9	視覚障害に関する福祉関連技術											
10	聴覚障害に関する福祉関連技術											
11	言語障害に関する福祉関連技術、運動障害に関する福祉関連技術(杖・歩行者、車いす)											
12	運動障害に関する福祉関連技術(車いす、福祉車両)											
13	運動障害に関する福祉関連技術(介護リフト、移乗機器、昇降装置、コミュニケーション機器)											
14	運動障害に関する福祉関連技術(介護ベット、自助具)、ロボット											
15	知的障害に関する福祉支援技術、講義のまとめ											
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	1.最終回を除き、毎回の授業で資料兼ノート用紙を提出する。2.第1回を除き、前回の授業で配布された資料を基に各学生が下調べをしてくる。3.第1回および最終回を除き、前回の授業の振り返りに基づき、質問や意見を発言する(一授業あたり2,3名)。					工 夫 そ の 他 の					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	配布された資料を読み、下調べをする。(1h) 授業を復習し、疑問点や考察・意見をまとめる。(1h)										
教科書	資料兼ノート用紙を配布。											
参考書	・基礎 福祉工学, 手島教之, 米本清, 相川孝訓, 相良二郎, 糟谷佐紀, コロナ社, ISBN978-4-339-04523-9 ・バリアフリーのための福祉技術入門, 足立芳寛, 後藤芳一, オーム社, ISBN4-274-13150-5 ・福祉情報技術1, e-AT利用促進協会, ローカス, ISBN4898144616											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	90%										
	ノート用紙提出	10%										
注意事項	平成27年度までの「福祉と工学技術」を不合格となった者で、同科目の履修が必要な者は本科目で読み替えます。「福祉と工学技術」を履修(単位取得)した者は、受講できません。重複履修となりますので、注意してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA41N111	コンピュータ科学入門(Introduction to Computer Science)					全学共通科目 導入・転換	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水1	氏名 中島 誠(理工)  E-mail nakasima@oita-u.ac.jp(中島) 内線 7884(中島)						
授業の概要	我々の生活にはコンピュータが不可欠となっている。インターネット上での情報のやりとりや、音声や画像などの処理が手のひらの上のコンピュータで行われ、家庭内でも知能ロボットが使われ始めている。また、蓄積された情報の中から有用な情報を得る技術は個人だけでなく企業経営における意思決定や社会システムの効率化などに応用されている。この講義では、背景にあるコンピュータの発展の歴史と、その応用を支える基本技術を学習する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	コンピュータに興味を持ち、その発展の歴史を説明できる。											
目標2	コンピュータ科学とその応用分野との関係を説明できる。											
目標3	コンピュータの社会における基本的な活用法について説明できる。											
目標4	コンピュータ社会が抱える課題に関心を持ち、自分自身の意見を述べることができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	コンピュータの歴史と基本的な構成を概観する。											
2	ハードウェア・ソフトウェアの役割と設計技術を紹介する。											
3	インターネットの歴史と基本技術を紹介する。											
4	WWW上での情報提供と取得のための技術を紹介する。											
5	情報検索の歴史とその基本的技術を紹介する。											
6	コンピュータ上での音の表現方法について概観する。											
7	音メディア処理の基本技術を紹介する。											
8	コンピュータ上での画像データの表現方法について概観する。											
9	画像データ処理の基本技術を紹介する。											
10	知能ロボットとそれを実現するための基本技術を紹介する。											
11	仮想現実や拡張現実を実現するための基本技術を紹介する。											
12	ソフトウェアの特徴とその設計方法を紹介する。											
13	プログラムが動く仕組みとプログラミングの基本的な考え方を紹介する。											
14	自然科学へのコンピュータの活用方法について概観する。											
15	人工知能に関する基本技術を紹介する。											
ラ ア ー ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	トピックごとに、理解度の確認あるいは、受講生自身の意見を問うレポート課題や小テスト等を出题する。宿題として受講生自身の情報収集による事前の下調べを科す場合もある。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	レポート課題や小テスト等(各担当教員の指示)の内容により、図書館等での事前の下調べ(15h)が必要となる場合もある。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(30h)										
教科書	教科書は用いない。											
参考書	適宜、参考資料を配付する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題	70%										
	小テスト	30%										
注意事項	理工学部共創理工学科知能情報システムコースの学生は履修不可。すでに全学共通科目の「情報科学の世界」を修得した学生は履修不可。											
備考	高見利也(理工), 古家賢一(理工), 大竹哲史(理工), 紙名哲生(理工), 行天啓二(理工), 池部実(理工), 賀川経夫(理工), 佐藤慶三(理工)も合わせて担当する。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中島誠（開発者），古家賢一（研究員），紙名哲生（研究員），行天啓二（システムエンジニア），佐藤慶三（システムエンジニア）
実務経験を いかした教 育内容	企業等で使われて来たコンピュータの歴史，システム開発，情報収集，研究開発がどのように行われるかを，経験をもとに紹介しつつ，実用的な技術についても説明する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA44S215	経済学を学ぶ(1st step to economics)					全学共通科目 社会・経済/社会	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医 ・理工・福	前期	水2	氏名 高見博之(経)  E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674						
授業の概要	経済学は、現実の様々な経済問題を体系的に評価する学問です。本講義においては、経済学の知識を持たない学生が、新聞等に取り上げられる話題について経済学の観点から評価できるようになるための基本的な経済学の考え方を学ぶことを目的とします。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	経済学の基本的な概念を説明できる。											
目標2	経済と企業との関係などの現実の経済問題について、各々の経済主体への影響を説明できる。											
目標3	需要曲線・供給曲線を用いた経済分析について説明できる。											
目標4	経済の動向や経済問題を評価する際に、複数の観点からの効果を説明できる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	経済学の分析対象											
2	分業の利益											
3	需要と供給											
4	価格メカニズム											
5	市場の効率性											
6	市場の失敗											
7	市場の限界											
8	労働市場											
9	GDPとは何か											
10	何がGDPを決めるのか											
11	消費需要と投資需要											
12	貨幣と金融											
13	政府の役割											
14	外国貿易と為替レート											
15	経済成長と国民生活											
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	・毎回、理解度を確認する「小レポート」を実施します。 ・「小レポート」の用紙に、講義内容を振り返るため毎回の講義のキーワードと講義内容についての質問を記載し提出してもらい、次回以降の講義で回答します。					工 夫 そ の 他 の					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書の予習(1回1h)										
	事後学修	講義内容の確認(1回1h)										
教科書	中谷武・中村保編著『1からの経済学』碩学舎, 2010年 ISBN: 978-4-502-68080-9											
参考書	講義中に随時示します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点(小レポートなど)	30%										
	期末試験	70%										
注意事項												
備考	経済学的な考え方に関心のある学生や、経済学を専門科目としてではなく有権者に必要な教養として学びたい学生に受講を勧めます。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA42G113	創造的思考法(Creative Thinking Skills)					全学共通科目 福祉・地域	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前学期	水3	氏名 鈴木 雄清 (IRセンター・教学マネジメント室) E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069						
授業の概要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。本科目で扱う内容は、企画、会議、レポート・論文作成、プレゼンテーション、読書、人材育成、質問紙法による自由記述や口頭による自由回答の分析など、様々な場面で応用できる。大学生生活や大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデアを創出できる。											
目標2	ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。											
目標3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。											
目標4	KJ法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出できる。											
目標5	大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習：「しあわせ」マインドマップを作成する。											
2	マインドマップとは、Xmindの使い方：Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。											
3	自己分析マインドマップ：自分自身についてのマインドマップを作成する。											
4	読書マインドマップ：1冊の本からマインドマップを作成する。											
5	マインドマップのまとめ [課題1]											
6	【ブロック2】ブレインストーミング(1)：グループで大学生生活に関する順番ブレインストーミングをする。 [課題2]											
7	ブレインストーミング(2)：グループで大分の地域活性化に関する順番ブレインストーミングをする。 [課題3]											
8	【ブロック3】KJ法-紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり：ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。											
9	KJ法-グループのグループ化・空間配置：A型図解化の空間配置をする。											
10	KJ法-関係線の描画：A型図解化を完成させる。 [課題4]											
11	KJ法-B型文章化：B型文章化で発想する。 [課題5]											
12	【ブロック4】KJ法(2)-A型図解化：大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。											
13	KJ法(2)-A型図解化(2)：A型図解化を完成させる。 [課題6]											
14	KJ法(2)-B型文章化：B型文章化で発想する。 [課題7]											
15	総まとめと最終課題 [課題8]											
ラック ニテ イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	演習、小テスト、チェックリスト・ルーブリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法	工夫 その 他の	アイスブレイク、動画の活用、LMS(Moodle)の活用、タスクは各自のペースで実施								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、KJ法A型図解化(20h)、KJ法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。											
参考書	川喜田二郎『続・発想法 KJ法の展開と応用(中公新書 210)』中央公論新社、1970年、ISBN9784121002105 トニーザン・バリーブザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ 脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	マインドマップ [課題1]	25%										
	小テスト	5%										
	ブレインストーミング [課題2・3]	10%										
	KJ法A型図解化 [課題4・6]	30%										
	KJ法B型文章化 [課題5・7]	20%										
	最終課題 [課題8]	10%										
すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。												
注意事項	Mac OS及びLinux OSに未対応のソフトウェアを使用するため、Windows OSが利用可能なノートパソコンの持参が必要。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA45N112	身近な物理学(Physics in familiar Phenomena)					全学共通科目 自然・科学	オンライン(オンデマンド型)					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水3	氏名 藤井 弘也(教) E-mail hfujii@oita-u.ac.jp 内線 7562						
授業の概要	この講義では、難解と考えられている物理学がいかに身近な現象を明快に説明できるかという点を話題として、これらの現象の基礎になっている物理法則へと展開する。例えば「空はなぜ青いのか」、「マジックミラーの原理は」などから光の本質へと話しを進めていく。物理に対する難しい、計算がめんどうといった固定観念を払拭し、物理が日常生活にどのように結びついているかについて知ることで、学生がこれまでと違った観点から物理を見ることができるようになることを目指す。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日常生活の中で見られる現象に目を向けるようになる。											
目標2	自然現象に関心を持ち、科学的な見方ができるようになる。											
目標3	毎回のテーマについて原理について話し合う											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	光の不思議1(虹のなりたち, ガラスの不思議)											
2	光の不思議2(光の反射と屈折)											
3	光の不思議3(夕焼けと青空<光の屈折と散乱>)											
4	力と運動の不思議1(ピラミッドと重心他)											
5	力と運動の不思議2(吸い上げポンプと気圧)											
6	電気のお不思議1(冷蔵庫とエアコン)											
7	電気のお不思議2(電線, 雷)											
8	電気のお不思議3(静電気)											
9	波と音のお不思議1(音の伝わり方)											
10	波と音のお不思議2(津波と地球)											
11	波と音のお不思議3(音の共鳴と反射)											
12	波と音のお不思議4(量子, 波と粒)											
13	宇宙のお不思議1(真空と無重力)											
14	宇宙のお不思議2(宇宙の成り立ち)											
15	宇宙のお不思議3(特殊相対性理論)											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業で取り上げた演示実験についてグループで討議し、原理について考察し、効果的な実施方法や、活用についてまとめる。				工夫 その他	演示実験を行う					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	準備学習として、できるだけ科学に関わる書籍やテレビ番組などを見て、いろいろな現象に対して興味を持ち、疑問を感じる目を養う。30h										
	事後 学修	事後学習として、見過ごしてきた科学的な現象について自分で調べる。30h										
教科書	複数の資料から授業者がテーマをピックアップするため、教科書を使用しない。											
参考書	パズル・物理の不思議入門：副島肇(講談社ブルーバックス)(ISBN-10:4062570386) 物理質問箱：都筑卓司他(講談社ブルーバックス)(ISBN-10:4061179055) 身近な物理の世界：福井高時(講談社サイエンティック)(ISBN-10:4061532030)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	50%										
	各回ライティング	30%										
	アクティブラーニングの成果	20%										
注意事項	関連するビデオなどを使用する。 できるだけ毎回演示実験を交えて授業を進める。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
AA44S032		青年期の教育とキャリア形成(Adolescent Education and Career Development)					全学共通科目 社会・経済/社会	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水3	氏名 丹田 桂太(IR・教マネ・アド) E-mail ktanda@oita-u.ac.jp 内線 7304						
授業の概要	この授業では、受講者の多くが該当する「青年」や「若者」をとりまく様々な「社会問題」の検討を通じて、みなさん自身のこれまで/これからのキャリアのあり方について考えていきます。「社会問題」というとどこか抽象的でとっつきにくさを感じるかもしれませんが、その多くが、みなさん自身やその身近な人たちの経験とも関わりを持っていると言えます。この授業では各回のテーマとして掲げる社会問題を自分事として捉えるための視点とともに、みなさん自身のキャリアを考えるにあたっての「気づき」を得ることを目指します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	青年をとりまく社会問題について、授業で扱った用語を用い、概要を説明することができる。											
目標2	青年をとりまく社会問題について、自分自身の経験を踏まえ他者と意見交換することができる。											
目標3	青年をとりまく社会問題に対する自らの考えを表現することができる											
目標4	身近な社会問題について、自発的に探究することができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション(授業の進め方や成績評価方法など)											
2	進学と就職 : これまでのキャリアの振り返り											
3	進学と就職 : 「標準的」なキャリアを歩むべきなのか?											
4	「働くこと」とキャリア:働くこと=キャリア形成か?											
5	地域移動 : 進学・就職に伴う移動											
6	地域移動 : 誰が移動できるのか?											
7	「地元」でのキャリア形成:「地元志向」を考える											
8	社会変動と格差 : 格差の種類											
9	社会変動と格差 : 格差の影響を大きく受けるのは誰か?											
10	貧困問題:限られた資源の中での生活・労働の実態											
11	若者と「ケア」:「ケア」は特別なものか?											
12	教育とDX : 学び方の変化											
13	教育とDX : 「個別最適」な学習は可能か?											
14	消費文化とSNS											
15	全体総括、まとめ											
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	グループディスカッション、ミニツッパーパー、質疑応答				工 夫 の 他 の	動画の活用、LMS(Moodle)の活用、Google Formsによるミニツッパーパーの提出、LiveQの活用					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	各回のテーマである社会問題について、資料を活用しつつ予習を行うこと(毎時間につき1.5h)										
	事後 学修	ミニツッパーパーを活用した授業内容の振り返りと整理(毎時間につき0.5h) 配布資料や講義ノートをを用いた復習を行うこと(毎時間につき1.0h)										
教科書	特に指定しません。											
参考書	特に指定しません。適宜、参考となる資料を紹介します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	ミニツッパーパー	30%										
	グループディスカッションへの参加	10%										
	最終レポート	60%										
	ミニツッパーパーは、毎授業後にGoogle Formsを通して提出してもらいます(2%×15回)											
注意事項	・受講態度について、基本的には受講生のみなさん自身に委ねますが、他者の学習を侵害する行為(授業内容に関係のない私語など)には厳しく対処します。 ・授業全体の3分の1以上欠席した場合は、成績評価を行いません。											
備考												
リンク	URL											



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
AA41G118		初年次地域キャリアデザインワークショップ(Carrier Design Workshop in Oita for Freshperson) *大分を創る科目					全学共通科目 導入・転換	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2	教・経・医・理工・福	前期	集中	氏名 牧野 治敏(教マ)、西村 靖史(別府大学)他 E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644											
<p>授業の概要</p> <p>大分県内の高等教育機関が合同して実施する授業です。自分自身がこれから大学で何を学ぶのか、何のために学ぶのかを自身のキャリア設計の一環として学ぶ初年次学生向けの授業です。授業では、県内の大学生でグループを作り、県内企業の社会人のアドバイスを受けながら実戦的に学びます。「大分県(地方都市の例)での就職と大都市での就職を比較することで、自分自信のライフスタイルや社会での役割を考えること」をテーマに、ディベート、ワールドカフェ、哲学対話等の手法により情報を整理、検討し、グループワークでプレゼンテーションを作成・実施します。</p> <p>本授業は4回のeラーニング(オンデマンド学習)と、3日間(11回分)の対面授業(合同学習)で構成されます。</p>																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 多様な情報から、必要な情報を抽出し分析することができる。																	
目標2 組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる。																	
目標3 グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができる。																	
目標4 自分の考えを基にして、他者と協調・協働しながら、大学での学び方を提案できる。																	
目標5 地域社会や企業が抱える課題に対応した提案ができる。																	
目標6 自分の生き方を構想し、自分自身が大学で学ぶ意義と価値を説明できる。																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 【eラーニングによるガイダンス】授業の目的や内容、進め方について。																	
2 【eラーニング1】キャリアをデザインするとは。社会で活躍するための大学等での学び方等を考える。																	
3 【eラーニング2】大分で働く魅力や課題を若手社会人へのインタビューから考える。																	
4 【eラーニング3】合同学習の準備のため、必要な資料を収集して整理する。																	
5 【合同学習1-1】学習する集団としてのグループ作り。協働して学習するための心構えをつくる。																	
6 【合同学習1-2】eラーニングで収集した各種情報をもとに、大分で就職することの魅力と課題を整理する。																	
7 【合同学習1-3】整理した各種情報をもとに、大分で就職することの意義を考える。																	
8 【合同学習1-4】大分での就職と大都市での就職を比較するディベートの準備のため情報を整理する。																	
9 【合同学習2-1】大分で就職することの魅力と課題について、グループ対抗のディベートを実践する。																	
10 【合同学習2-2】若手社会人を交えたワールドカフェにより、キャリアデザインとそのための大学での学修を考察する。																	
11 【合同学習2-3】若手社会人を交えたグループ討議により、大分で就職することや、そのための大学での学びのあり方を研究する。																	
12 【合同学習2-4】若手社会人を交えたグループ討議を踏まえて、大分で就職することや、そのための大学での学びのあり方についてのプレゼンテーション作成。																	
13 【合同学習3-1】地方で就職することや、そのための大学での学修のあり方についての発表に向けての最終調整。																	
14 【合同学習3-2】グループによるプレゼンテーションと若手社会人を交えた意見交換。																	
15 【合同学習3-3】プレゼンテーション、グループ活動の講評。学修全般への振り返り。最終課題の説明。																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	・学習のまとめに毎に、課題と省察をLMSに記載する。				工夫 その他	・eラーニングのビデオ視聴により各自のペースで合同学習のための学習を進めることができる。 ・ディスカッションでは社会人を交えることで、学生同士だけでは得られない多様な観点から議論を進めることができる。										
	B:意見の表現・交換	・協同学習の手法を取り入れ、ディベートやワールドカフェなどの機会を設ける。															
	C:応用志向	・プレゼンテーションや、個人レポートの作成により学修の定着を図															
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備	・大分県で就職するという前提で、県内の企業や複数の自治体の特徴や活動の様子について調べ整理する。															
	学修	・合同学修に向けて、eラーニングでの若手社会人の意見や、各自で調べた大分県の特長に基づいて、自分自身の人生設計について仮のものでのよいので、自分自身の学修の意義を整理する。															
	事後	・授業でのディスカッションやプレゼンテーションの内容を踏まえて、自らのキャリアデザインへのイメージを具体的に構想するとともに、これからの大学での学修の意義を考える。															
教科書	・特定の教科書は使用しない。授業過程の詳細はLMS上に記載します。																
参考書	・特定の参考書は使用しない。授業での課題やグループワークのために、資料を配付します。また、県や市などが公開するホームページや各種行政資料等を各自で検索し参考資料にします。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	LMSへの課題提出	20%															
	グループ学習への貢献度	20%															
	「学びの足跡」への記述	20%															
	最終課題の提出	40%															
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同授業の予定 令和6年6月8日(土)、6月9日(日)、6月16日(日) (予備日6月23日(日))</li> <li>全日程参加が受講条件です。日程が変更される場合があるので教務情報システム等で最終確認してください。</li> </ul>																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の授業風景等のビデオ(YouTube)を参考にしてください。(おおいた地域連携プラットフォーム公式ホームページ)</li> <li>受講生全体のファシリテーターや指導、講評のために、TA、他大学の教員や若手社会人が複数参加します。</li> </ul>																
リンク	<p>初年次地域キャリアデザインワークショップ(ダイジェスト版)</p> <p>URL <a href="http://urx.space/PPEZ">http://urx.space/PPEZ</a></p>																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA43G119	国際健康コンシェルジュ養成講座(International health concierge training course)					全学共通科目 文化・国際	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	1	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	集中	氏名 大下晴美(医), 西田欣広(医), 橋本武博(医), Sean Chidlow(医), 包 聯群(経), 濱中良志(大分県立看護科学大学) E-mail oshita@oita-u.ac.jp(大下), ynishida@oita-u.ac.jp(西田), hashimo2013@oita-u.ac.jp(橋本), chidlow@oita-u.ac.jp(Chidlow), blianqun@oita-u.ac.jp(包), hamanaka@oita-nhs.ac.jp(濱中)						
授業の概要	訪日外国人数は新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられて以降、急速に増加しており、今後もさらにこの傾向は続くと思われる。本講義では、突発的な病気・外傷等で困っている訪日外国人に対し、疾患の種類・重症度を判断できる基本的な医学知識、そして病気等の症状を確認するための英語・中国語の基本的表現を学び、助けを必要とする外国人に医学的知識をもって、英語や中国語で積極的に話しかけることができる人材の育成をめざす。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	病気・外傷の種類・重篤度・緊急度を判断することができる。											
目標2	感染症に対する基本的な知識を理解し、適切な感染症対策を行うことができる。											
目標3	外国語(英語・中国語)の基本的な表現を使って、「身体症状を質問し、適切な指示を与える」ことができる。											
目標4	多様な年齢、性別、人生観、仕事観を持つ社会人とコミュニケーションをとることができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	講義1:「科学と医学」に関する基本的な概念について											
2	講義2:成人によくある病気について											
3	講義3:婦人科疾患と産科疾患について											
4	講義4:海外渡航者のための感染症対策と予防接種について											
5	外国語(英語)1:体調を崩した訪日観光客と対話するための基本的英語表現を学び、発話練習を行う。											
6	外国語(英語)2:日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで使用する基本的英語表現を学び、発話練習を行う。											
7	外国語(中国語)1:中国語の発音規則と発声の仕方を学び、その発音練習を行う。											
8	外国語(中国語)2:体調を崩した訪日観光客と対話するための基本的中国語表現を学び、発話練習を行う。											
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	小テスト、知識の定着・確認を図るレポート、教え合い・学び合い、発表、ロールプレイ				工夫 その 他の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	事前の配布資料がある場合には、必要に応じて予習する(5h)。 配布資料等を用いて、授業内容を復習する(40h)。										
教科書	教科書は指定しない。講義の中で適宜資料を配布する。											
参考書	参考書は指定しない。講義において、適宜紹介する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各講義の課題・小テスト	50%										
	各講義での発表・実技	50%										
各講義の課題・小テストおよび発表・実技の評価の合計が、基準点(60点)以上であることを単位取得の条件とする。												
注意事項	講義中に社会人、他大学の学生、他学部の学生とのグループワークを行うので、積極的な参加を期待する。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	西田欣広（附属病院医師），橋本武博（附属病院医師）
実務経験を いかした教 育内容	婦人科疾患・産科疾患（西田）、海外渡航者のための感染症対策と予防接種（橋本）について講義する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA45N052		原子と分子(Atoms and Molecules)					全学共通科目 自然・科学	オンライン(オンデマンド型)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1・2・3・4	教・経・福	前期	月4	氏名 大賀 恭(理工) E-mail yohga@oita-u.ac.jp 内線 7958												
授業の概要	物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって、物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	基本物理量, 単位を用いて, 適切な有効数字で測定値を表現・取り扱うことができる																	
目標2	物質を構成する基本単位である原子の構造を説明できる																	
目標3	原子同士の結合の種類とそれらの成り立ちを説明できる																	
目標4	結合様式の違いに基づいて, 分子の構造と性質を説明できる																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	受講にあたっての注意事項(オンライン), 第1章 化学の基本: 物質の分類																	
2	第1章 化学の基本: 元素と元素記号																	
3	第2章 単位と測定値の扱い: SI単位																	
4	第2章 単位と測定値の扱い: 有効数字																	
5	第3章 原子の構造と性質: 電子と原子核																	
6	第3章 原子の構造と性質: ボアのモデル																	
7	第3章 原子の構造と性質: 原子軌道																	
8	第3章 原子の構造と性質: 電子配置																	
9	第4章 原子から分子へ: 共有結合																	
10	第4章 原子から分子へ: 混成軌道																	
11	第4章 原子から分子へ: 結合・共鳴																	
12	第4章 原子から分子へ: 電子対反発則・極性																	
13	第4章 原子から分子へ: 分散力・水素結合																	
14	第5章 いろいろな結晶: イオン結晶・金属結晶・共有結合結晶																	
15	第5章 いろいろな結晶: 半導体																	
ラーニング	A: 知識の定着・確認	毎回, 講義内容に関するチェックテストと課題レポートを課す。					工夫 その 他の	毎回の課題は添削・採点して, 解答例と解説を付けて返却する。特に理解が不十分だと思われる点は, 解説のオンデマンド資料を作って復習に役立つようにする。										
	B: 意見の表現・交換																	
	C: 応用志向																	
	D: 知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	事前に教科書, 講義資料に目を通しておく(15h)。																
	事後 学修	毎回の講義内容に関する1~2題のレポート課題を課すので, 教科書, 講義資料を見直しながら問題を解いて復習すること(30h)。																
教科書	浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「第4版 FRESHMAN化学」, 学術図書出版社, 2022年, ISBN 978-4-7806-1034-5																	
参考書	浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清 共著「第4版 化学 - 物質・エネルギー・環境 - 」, 学術図書出版社, 2008年, ISBN 978-4-7806-0117-6 浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「原子・分子から学ぶ化学の世界 - 基礎化学・エネルギー・環境 - 」, 学術図書出版社, 2009年, ISBN 978-4-7806-0172-5																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎回のチェックテスト	10%																
	毎回のレポート課題	40%																
	期末試験	50%																
注意事項	講義はプロジェクトを用いて行う。画面に表示する内容(講義資料)は, 事前にMoodleからダウンロードすること。関数電卓, excelの操作ができるようにしておくこと。																	
備考	理工学部の学生が教養科目として受講することは認めない。複数学部対象科目であるため, 「具体的な到達目標」の「DP項目との対応」は, 「大分大学卒業認定・学位授与の方針」との対応を記載している。																	
リンク	URL																	

令和6年度「おおいた地域連携プラットフォーム」単位互換科目のシラバスについて

機関名	大分県立看護科学大学
-----	------------

(2)単位互換科目のシラバスをご提出ください。(シラバスを提出いただいた場合は、この様式は記入不要です。)  
シラバスが未確定の場合は、【記入例】を参考に下記の表②へ記入のうえご提出ください。(後日、シラバスが確定されましたら、シラバスそのものご提出もお願いいたします。)

【表②】

科目名	授業の概要 *100文字程度	情報を「受信」「理解」「発信する」という視点からコミュニケーションを理解することを目的とする。
コミュニケーション論	授業計画	01.オリエンテーション:文化とコミュニケーション 02.グループ・エクササイズ:自己理解 03.プレゼンテーション・スキル(1):情報の発信 04.プレゼンテーション・スキル(2):人前で話す 05.行動観察:情報の受信 06.コミュニケーション:報告・指示・依頼、受信・理解・発信 07.プロセスレコード:情報の受信・理解・発信の流れを理解する 08.リーダーシップとメンバーシップ:集団における役割
	成績評価	毎回の知識確認テスト・小レポート:6割 総合レポート:4割
	到達目標(学ぶ内容)	1.コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できること 2.自分が感じたり考えたりしていることに関心を持ち、言葉で表現できること 3.自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを列挙できること 4.自分の考えを効果的な方法を用いて行えること

科目名	授業の概要 *100文字程度	人が外の世界を認識する働き、外の世界との相互作用を通して自分自身や他者の行動パターンが変化していくメカニズムを学ぶ。
人のこころの働き	授業計画	01.外の世界の認識(1):「みる」とはどのような活動なのか？ 02.外の世界の認識(2):「きく」とはどのような活動なのか？ 03.外の世界の認識(3):記憶の仕組み、はたらきについて 04.外の世界の認識(4):非合理的な問題解決者としてのヒト 05.学習の基礎理論(1):古典的(レスポナント)条件づけの基本原理 06.学習の基礎理論(2):古典的(レスポナント)条件付けによる諸現象の理解 07.学習の基礎理論(3):道具的(オペラント)条件付けの基本原理(自発的行動) 08.学習の基礎理論(4):道具的(オペラント)条件付け(強化と弱化的基本原理)
	成績評価	事前課題の小テスト(4点/回) 講義内容の要約課題(4点/回) 授業を受けてのコメント(2点/回) 授業での発表、投稿、時間外学修課題の得点を8回分集計して評価する。
	到達目標(学ぶ内容)	1.講義中に理解した内容を、パラグラフライティングの手法に沿って簡潔に要約できる。 2.自分で答えを出し、それに基づき、周囲の学習者と課題の解決に向けて話し合う。 3.講義内容に基づき、日常生活の諸事象を解釈し、他の学習者が理解できるように表現できる。 4.自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。

科目名	授業の概要 *100文字程度	学問としての心理学が、性格をどのように理解しているのか、性格を実体化し再現可能な方法を用いて客観的な理解を目指す「科学的」アプローチと、性格の状況を超えた一貫性・安定性を前提としない「状況論的」アプローチについて学ぶ。
人間関係学	授業計画	01. 人格と性格、どのように違うのか？ 02. 性格を科学的に理解するとはどういうことか？ 03. 科学的な性格理解(1)(特性論的性格理解) 04. 科学的な性格理解(2)(類似論的性格理解) 05. プレグナンツの法則と性格理解(全体は部分の総和か？) 06. 状況論的な性格理解(システム論についての基本的な理解) 07. 状況論的な性格理解の方法(1)(観察: 図と地、図地反転) 08. 状況論的な性格理解の方法(2)(拘束としてのコミュニケーション)
	成績評価	事前課題の小テスト(4点/回) 講義内容の要約課題(4点/回) 授業を受けてのコメント(3点/回) 授業での発表、時間外学修課題の得点を8回分集計して評価する。
	到達目標(学ぶ内容)	1. 人が人を理解することがどのような営みなのか、心理学における2つの方向性を説明する。 2. 講義で理解したことを、パラグラフライティングの手法を用いて簡潔にまとめる。 3. 個人が抱える人間関係上の問題に、学修した内容を適用する。 4. 学ぶことが個人の内側に閉じた活動ではなく、他者に開かれた活動であることの具体例を挙げる。 5. 学修課題に取り組むために、周囲の学習者とのコミュニケーションをとる。 6. 自分自身の学修の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。

科目名	授業の概要 *100文字程度	カウンセリングの基礎となる理論とカウンセリングスキルを学び、看護や保健室など、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作ることを目的とする。
カウンセリング論	授業計画	01.カウンセリングの考え方:健康相談や悩みなどについて聴くことの意味 02.カウンセリング・スキル(1):あいづち、繰り返し、質問 03.カウンセリング・スキル(2):要約、言い換え 04.カウンセリング理論(1):来談者中心療法 05.カウンセリング理論(2):認知行動療法 06.ロールプレイ(1):丁寧に聴く・理解する 07.ロールプレイ(2):共感する 08.PTSDと惨事ストレス:患者・児童生徒と看護職自身の心を守る
	成績評価	毎回の知識確認テスト・ミニレポート:6割 総合レポート:4割
	到達目標(学ぶ内容)	1.カウンセリングの基礎的なスキルを理解し、それぞれのスキルを説明できる。 2.ロールプレイを行って、10分以上会話を継続し、複数回のあいづち、繰り返し、開いた質問、言い換えをして、最後に要約ができる。 3.ロールプレイを通じて、自分のコミュニケーションの癖に気づいて、記述することができる。 4.カウンセリングの理論が看護や保健室などの場面でどのように役立つのか説明できる。



科目名	授業の概要 *100文字程度	発達を、進化、環境、遺伝という視点から複合的に理解する枠組みに沿って、言語、運動、認知機能、アタッチメント行動などの発達の過程について学ぶことで、発達という概念を相対化する態度を養う。
発達心理学	授業計画	01.乳児期の言語発達:言語発達に不可欠なのは？ 02.乳児期の運動発達:随意運動の発達と原始反射 03.ヒトの進化の所産としての「生理的な早産」、乳歯、大泉門、原始反射 04.ヒトの育児戦略:アロマザリング 05.育てられるものに埋め込まれた生依存戦略:アタッチメント行動の発達 06.しょうがいのシステム論的理解:ICFモデル 07.ディスレクシアのシステム論的理解 08.自閉スペクトラム症のシステム論的理解
	成績評価	事前課題の小テスト(4点/回) 講義内容の要約課題(4点/回) 授業を受けてのコメント(3点/回) 授業での発表、時間外学修課題の得点を8回分集計して評価する。
	到達目標(学ぶ内容)	1.進化という視点から、種の発達プロセスを概観し、発達を進化の所産として説明する。 2.進化という視点から、人間の発達に関する事象を説明する。 3.ヒトの発達プロセスを理解・説明するために必要な心理学の概念と知識を修得する。

科目名	授業の概要 *100文字程度	本講義では、看護を原理的・本質的に理解し、看護を探求し創造する基盤を養うことを目的とする。
看護学概論	授業計画	01.看護とは(1)看護の本質、看護の役割と機能 02.看護の提供者(1)看護の変遷 03.看護の提供者(2)現在社会における看護、継続教育とキャリア開発 04.看護の対象の理解(1)統合体としての人間、生活者としての人間 05.看護の対象の理解(2)健康と生活 06.看護提供のしくみ(1)看護実践と質保証；看護技術 07.看護提供のしくみ(2)看護実践と質保証；看護記録、看護研究 08.看護提供のしくみ(3)医療安全と医療の質保証 09.看護提供のしくみ(4)看護サービスの提供の場と管理 10.看護における倫理
	成績評価	筆記試験：50% 提出物：40% 受講態度：10%
	到達目標(学ぶ内容)	1.看護とは何かについて自分の言葉で述べることができる。 2.看護の役割や機能について説明できる。 3.看護の対象にとっての健康と生活との関係について述べるができる。 4.看護提供の仕組みについて説明できる。 5.看護専門職としての基本的な態度について説明できる。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	ジェネリックスキル養成1 (Generic Skills Training 1)		
ナンバリングコード	A10801 B10303	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 基礎レベル
単位数	1	配当学年 / 開講期	1年 / 前期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A032501	クラス名	-
担当教員名	吉村 充功、東寺 祐亮		
履修上の注意、履修条件	9月中旬頃の平日に1泊2日の合宿研修で実施しますので、参加できることを確認して履修してください(実施日は決定次第、履修登録者に連絡します)。合宿地は住吉浜リゾートパーク(杵築市)です。送迎バスを運行します。研修宿泊費・食費(4食)は実費負担です(10,000円予定)。必要なものについては、別途指示します。県内の複数の大学・短大・高専(最大11大学等)の学生が合同で合宿研修を行いますので、目的意識を持って、主体的に臨んでください(COC+)。受入数に上限があるため(最大40名程度)、登録人数が大幅に超過した場合は、志望動機書等の提出を求め、許可		
教科書	特になし		
参考文献及び指定図書	特になし		
関連科目	ジェネリックスキル養成2、大分の地域ブランド創造体験、現代社会要論、大分学・大分楽。初年次地域キャリアデザインワークショップ(大分大学COC+単位互換科目)		

○基本情報			
授業の目的	課題解決型授業(PBL)やインターンシップの取り組みに参加し意義あるものとするため、また社会人として活躍するためには、ジェネリックスキル(汎用的技能)をあらかじめ高めておくことが重要です。本科目では、1泊2日の野外活動研修を通じて、経験から学ぶ力であるコンピテンシー(主体性・多様性・協働性)を養成することを主目的とします。本学におけるディプロマ・ポリシーのチームで活動するためのコミュニケーション能力の育成につながります。COC+における大分を創る人材を育成するコア科目です。		
授業の概要	本科目は、「大分を創る人材を育成する科目」として、県内の複数の大学・短大・高専(最大11大学等)の学生が合同で合宿研修を行います(COC+)。野外活動研修であるプロジェクトアドベンチャーをベースとした体系的な活動を通じて、自己の理解と挑戦、他者への理解や役割を理解し、さらにはチームとして課題に立ち向かうことの重要性を理解し、ふり返りを通じてコンピテンシー能力を高めていきます。 授業協力として、ローエレメント研修においては、NPO法人ABC野外教育センターのスタッフが各チームのファシリテートを行います。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」	
地域志向科目	カテゴリー II : 地域での体験交流活動を教育内容に含む科目		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	① 各自が「他のメンバーに配慮しながら、オープンな気持ち・態度になり、課題に向き合う際に、チームに積極的に関わり、チームに貢献することが自分を成長させ、今後の様々な場面でもそれが役に立つ」と意識できる。			30点
【知識・理解】				
【技能・表現・コミュニケーション】	②フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)、チャレンジ・バイ・チョイス(自分自身で積極的に動く力、対自己基礎力)という観点から、活動を各自がふりかえることができる。		40点	
【思考・判断・創造】	③体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)という観点から、活動を各自がふりかえることができる。		30点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
成果物(ふり返り資料)、レポートにより、到達目標を達成できているかを評価します。なお、成績評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。 チーム活動での行動により、自分の役割を理解し、それに沿った行動ができているか、自分の意見を積極的に述べているかを評価します。なお、成績評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。	

○その他	
○過去の授業の様子を以下の動画で確認できます(大分大学COC+のWebサイト)。 <a href="https://youtu.be/ynolTHd5UqY">https://youtu.be/ynolTHd5UqY</a> <a href="https://youtu.be/L3TOrZRuf1U">https://youtu.be/L3TOrZRuf1U</a>	
○授業内容については不明な点は吉村研究室(4号館2階)を訪問してください。他大学の単位互換生を含めて、メール(yoshimuramt@nbu.ac.jp)での質問も受け付けます。	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	ジェネリックスキル養成1 (Generic Skills Training 1)	授業コード	A032501
	担当教員	吉村 充功、東寺 祐亮		
<b>学修内容</b>				
<b>1. オリエンテーション、チーム編成</b>				
①科目の趣旨説明 ②チーム編成、指導者紹介、基礎力チェックシート等記入 ③研修内容説明				
予習 シラバスを熟読、過去の活動の様子を動画で視聴する。自身のジェネリックスキルについて振り返ってください 約10時間				
復習				
<b>2. アイスブレイク</b>				
チームに分かれて活動を行います(1チーム10~15名を予定) チーム活動を行うにあたってメンバーを知り、団結力を高めるため、各種のアイスブレイクを行います。				
予習				
復習				
<b>3. ローエレメント研修(1)</b>				
体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)、フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)を意識したアクティビティーを行います。チームで与えられた課題の解決に取り組みます。				
予習				
復習				
<b>4. ローエレメント研修(2)</b>				
引き続き、体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)、フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)を意識したアクティビティーを行います。チームで与えられた課題の解決に取り組みます。				
予習				
復習 初日の活動を個人で振り返ってください。 約1時間				
<b>5. 初日のふり返し(ビーイング)</b>				
ビーイングというふり返し手法等を用いて、初日の行動をチームでふり返ります。また、翌日に向けた目標設定を行います。				
予習				
復習 初日の活動をあらためてふり返し、翌日へ備えてください。 約2時間				
<b>6. ローエレメント研修(3)</b>				
前日に引き続き、体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)、フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)を意識したアクティビティーを行います。あわせて、チャレンジ・バイ・チョイス(自分自身で積極的に動く力、対自己基礎力)を意識してアクティビティーを行います。チームで与えられた課題の解決に取り組み、自己への挑戦とチームを信頼する力を育みます。				
予習				
復習				
<b>7. ローエレメント研修(4)</b>				
引き続き、体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)、フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)、チャレンジ・バイ・チョイス(自分自身で積極的に動く力、対自己基礎力)を意識したアクティビティーを行います。チームで与えられた課題の解決に取り組み、自己への挑戦とチームを信頼する力の総仕上げを行います。				
予習				
復習 午前中の活動を個人で振り返ってください。 約1時間				
<b>8. リフレクション(ふり返し)・全体総括</b>				
①前日作成したビーイングへの加筆・フリプトーク ・「この研修で印象に残っている場面や瞬間」「この研修を通じて自分が学んだと思うこと」「明日から踏み出す一歩」 ②自己評価シート記入 ・フリプトークの内容をシートに記入 ・ふり返しシート、基礎力チェックシート記入				
予習				
復習 活動内容をふり返し、今後の活動計画、ジェネリックスキルの育成計画を立案してください。 約15時間				

○授業計画	科目名	ジェネリックスキル養成1 (Generic Skills Training 1)	授業コード	A032501
	担当教員	吉村 充功、東寺 祐亮		
<b>学修内容</b>				
9.				
予習				
復習				
10.				
予習				
復習				
11.				
予習				
復習				
12.				
予習				
復習				
13.				
予習				
復習				
14.				
予習				
復習				
15.				
予習				
復習				
16.				
予習				
復習				

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	自然生態学 (Natural ecology)		
ナンバリングコード	L20104	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 環境・地域
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修: 環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース 選択: 建築設計コース、建築工学コース、住居・インテリアコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L121001	クラス名	-
担当教員名	中西 章敦		
履修上の注意、履修条件	・関心のある学生なら誰でも歓迎します。ただし、私語は他の人の迷惑になるので、しないでください。 ・復習を欠かさないようにしてください。 この分野の知識・技術を積極的に学ぶには、知識習得以上に、「体験」「気づき」「感動」「わかちあい」「関連事業への参画」という一連の学習プロセスをとることが最も有効的となります。講演会やシンポジウム、自然観察会などの諸事業にも、積極的に参加して下さい。		
教科書	教科書の指定なし(ただし、毎回ワークシート等を配布。「参考文献」参照。)		
参考文献及び指定図書	『改訂版 ビオトープ管理士資格テキスト、(公財)日本生態系協会監修、日本能率協会MC、3080円』 『自然生態修復工学入門(養父志乃夫 著、農山漁村文化協会、3080円)』		
関連科目	森里海連環学と地球的課題、環境水理学、地域再生論、プロジェクト1～3		

○基本情報	
授業の目的	本講座では、大学構内の身近な自然を通して上記のプロセスを実践し、生態学の基礎を学ぶとともに、可能な範囲で『自然環境に配慮した工学的手法[生態工学の手法]』の基盤となる感性を身につけることを到達目標とします。この目標を達成するために、次のテーマの学びを計画しています。本講義は、ディプロマポリシーにある「技術が環境に与える影響について理解」するもので、この知見をもとに「地域の環境・景観・箕面周りの暮らしに至るまでの諸問題を理解」するものにつながるものである。
授業の概要	21世紀は「自然との共生」の時代といわれています。しかし、私たちがそれを実現させるには、一人一人が、次の一連の「学び」を実行することが必要となります。すなわち、まずありのままの「自然に触れて体感すること」です。次にその体験から「多くの気づきや感動を得ること」です。そして、それらを基盤として、「自主的に科学的知識や技術を学ぶこと」です。本講座は、これらを実施します。本講義では、現在の自然環境における課題や問題点を自分で探し、どのようにすれば解決できるかを考える力を習得してもらいます。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦(大分県土木建築部における大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政) 「自然環境保全の実態と大分県内における動向に関する講義」

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	自然環境や生態系に興味・関心を持つこと		10点	10点
【知識・理解】	自然環境や生態系の基本的知識を理解すること		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	自然環境や生態系の保全・再生に関する技術の基礎を身につけて、自身で表現できること		10点	10点
【思考・判断・創造】	上記の知識・技術・実践に基づいて 課題を解決するなどの創造的思考ができること		30点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
出席1回につき1点を配点しますので休まず出席して下さい。 毎回の講義の最後に簡単な内容確認ワークシート(各3点)を提出してもらいます。 15回の講義の中で4回のレポート(各5点)を課します。 第15回講義で講義内容を踏まえた自身の環境保全活動に関するレポート(20点)を課します。 講義の中で、適宜質問を行います。優れた解答をした学生は、記録して加点することがあります。 課題のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。

○その他
以下の実践活動についても可能な範囲で評価・加点を行う。 ① 学外の自然環境に関する講座・シンポジウムなどへの参加 ② 学内・学外の定期的な自然観察会への参加など、積極的姿勢や態度

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	自然生態学 (Natural ecology) 中西 章敦	授業コード	L121001
<b>学修内容</b>				
<b>1. オリエンテーション ～本講座の内容から評価方法まで～</b> 本講座を学ぶ目的、講座内容から評価方法までを説明する。 本講義を受講することでビオトープ管理士の試験内容を網羅できることを確認する。				
予習	現代における「生態学」の意味について学習する。	(約2.0h)		
復習	ビオトープ管理士試験の内容を学習する。	(約2.0h)		
<b>2. 生態学について</b> 生態系について、これまでの「生物としての生態学」の内容の復習と、生態学分野における学問としての生態学について学ぶ。				
予習	学問としての「生態学」について調べる。	(約2.0h)		
復習	生態系や自然環境がテーマとなっているマ映画・小説・マンガ等に触れる。	(約2.0h)		
<b>3. 生態系の仕組み</b> 一般的な食物連鎖だけでなく、生態ピラミッドから食物網について学ぶ。 生態系の中の人間の位置づけについて考える。				
予習	食物連鎖・生態ピラミッドについて調べる。	(約2.0h)		
復習	人間と自然との共生について考え、家族や知人・友人との会話で話題にあげ、議論する。	(約2.0h)		
<b>4. 環境条件</b> 生物の生息条件、繁殖可能条件等の環境条件について学ぶ。 ベルクマンの法則やアレンの法則、擬態等について学び、人間社会への活用について考える。				
予習	生物ごとの生息可能な気候条件について調べる。	(約2.0h)		
復習	バイオミクリーについて調べ、現在実用化されていないものについて考える。	(約2.0h)		
<b>5. 生物地理と生態</b> 動物の移入や絶滅に大きく寄与する島の大きさや隣接島との距離について学ぶ。 メタ個体群やボトルネック効果について学び、動物の保護・保全に打ち手考える。				
予習	「生物地理」と「シードバンク」いう言葉を調べる。	(約2.0h)		
復習	身近なエコロジカルコリドーについて調べる。	(約2.0h)		
<b>6. 個体群生物学と遷移</b> 様々な種の生存曲線について学び、種の繁殖戦略と結びつけて考察する。 あわせて植物の遷移について考え、動物個体群と群落を結びつけ、全体をイメージできるようにする。				
予習	生態学における「生存曲線」について調べる。	(約2.0h)		
復習	植物の遷移の状況が分かる場所を探し、実際に遷移を自分の目で見る。	(約2.0h)		
<b>7. 保全生態学の基礎用語</b> 保全生態学における基礎用語について学ぶ。 生態系の保全において、キーストーン種やアンブレラ種に着眼すること、また保全啓発においてはシンボル種や希少種の存在が広く市民に受け入れられやすいため、それらを活用した保全策について講じる。				
予習	「キーストーン種」「アンブレラ種」「シンボル種」「希少種」について調べる。	(約2.0h)		
復習	まだ絶滅していないがキーストーン種ではないかと考えられる種について調べ、考える。	(約2.0h)		
<b>8. 生態学部門の復習・ビオトープの定義</b> これまで学んできたビオトープ管理士の「生態学」部門の復習として小テストを行う。 社会で使用されている「ビオトープ」と、生態学上での「ビオトープ」の意味の違い、正しい内容について学ぶ。				
予習	「ビオトープ」とはどのようなものか調べ、自分の考える「ビオトープ」について整理する。	(約2.0h)		
復習	生態学部門で理解できていなかった内容を整理する。	(約2.0h)		

○授業計画	科目名 担当教員	自然生態学 (Natural ecology) 中西 章敦	授業コード	L121001
<b>学修内容</b>				
<b>9. ビオトープタイプ</b> ビオトープの多様性について学び、様々なビオトープのタイプについて学ぶ。 多様性が求められるビオトープを保全していくにはどのような配慮が必要か、どのような仕掛けを残しておくかについて学ぶ。				
予習	「プレートテクトニクス」という言葉について調べる。	(約2.0h)		
復習	保全したいビオトープについて考え、その保全方法まで考えてみる。	(約2.0h)		
<b>10. ビオトープの現状</b> いわゆる絶滅危惧種と呼ばれている、絶滅の恐れのある野生生物について学び、それぞれの生物がどのように絶滅に追い込まれていったかを考え、ビオトープの保全、種の保全について学ぶ。				
予習	絶滅危惧種と呼ばれている生物について3種以上調べる。	(約2.0h)		
復習	大分県内の絶滅危惧種について調べ、その保全方法を考えてみる。	(約2.0h)		
<b>11. ビオトープの保全が必要な理由</b> ビオトープの保全が必要な理由は、実は絶滅の恐れのある野生生物のためだけではない。 我々人間にとってビオトープや生態系がどのように恩恵をもたらしているかについて学ぶ。				
予習	「生態系サービス」について調べ、どのようなものがあるか、その種類について理解する。	(約2.0h)		
復習	自身が恩恵を受けている生態系サービスについて調べ、とりまとめる。	(約2.0h)		
<b>12. ビオトープの保全の考え方</b> ビオトープの保全にも計画が必要であり、そのためには保全の目標となる種を定め、種だけでなく自然との繋がり全体を保全し、その保全区域の形状や配置にまで配慮しなければならない。 ビオトープ保全の考え方を学び、保全だけに止まらず、その事後評価についても考察する。				
予習	身近な保全すべきビオトープについて考え、保全した異種とその理由を考えておく。	(約2.0h)		
復習	予習時に保全したいと考えた種について、講義の内容を活用してどのように保全すべきか考える。	(約2.0h)		
<b>13. ビオトープ論の復習・ビオトープ計画部門について</b> これまで学んできたビオトープ管理士の「ビオトープ論」部門の復習として小テストを行う。 ビオトープ管理における計画部門と施工部門について学び、まずは計画にはどのような事が必要かについて学ぶ。				
予習	ビオトープ計画とはどのような事が必要か調べ、考える。	(約2.0h)		
復習	ビオトープン部門で理解できていなかった内容について整理する。	(約2.0h)		
<b>14. ビオトープ計画</b> ビオトープ計画を行うにあたり、「課題」と「問題点」の違いについて学び、保全地域の課題と問題点の洗い出しを行う。 ビオトープ計画の上位計画に当たる地域計画や施策についてどのようなものがあるか学ぶ。				
予習	大分県や自身の出身県の長期計画または総合計画等、施策の上位計画に目を通す。	(約2.0h)		
復習	上位計画等地域計画の中の、ビオトープや環境保全に関する内容を読む。	(約2.0h)		
<b>15. ビオトープ施工</b> ビオトープは計画だけでは終わらない。実は現場の最前線でこそその考え方が必要であり、現場技術者の視点から、現場のビオトープ論を学び、しつらえや施工の工夫を実際の施行令から学ぶ。				
予習	ビオトープの施工事例について調べておく。見つけにくい場合は「多自然川づくり」について調べる。	(約2.0h)		
復習	身近なビオトープ施工現場を探し、自分の目で確かめる。多くの場合は河川に行けば見ることが出来る。	(約2.0h)		
<b>16. 総括レポートの提出とビオトープ管理士受験へのアドバイス</b> 最終レポートの作成にあたり、質疑応答、指導を行う。 ビオトープ管理士の受験を希望する学生には受験にあたってのアドバイスをを行う。				
予習	これまでの講義内容から、次椎のビオトープ論を明確にする。	(約2.0h)		
復習	身の回りの環境保全、生態系、ビオトープを感じながら生活する。	(約2.0h)		

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地域再生論 (Community Revitalization)		
ナンバリングコード	L30108	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 環境・地域
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L010801	クラス名	-
担当教員名	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
履修上の注意、履修条件	特にありません。 講義に遅刻、欠席することなく毎回出席して下さい。		
教科書	特にありません。		
参考文献及び指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランドと魅力あるまちづくり (学芸出版社) 佐々木一成 著</li> <li>・地域再生学 (晃洋書房) 湯浅良雄・山本修平・崔英靖 編著</li> <li>・地域創生への挑戦 (有斐閣) 清成忠男 著</li> </ul>		
関連科目	自然生態学、環境水理学、日本建築史、都市計画、ランドスケープ		

○基本情報							
授業の目的	少子化・高齢化が進む日本では、住民の生活が立ち行かなくなりつつある地域が地方を中心に顕在化しています。そのため、豊かな自然や伝統文化、地域の特性を活かした地場産業など、これまで魅力あふれ、独自性を発揮してきた地域が衰退する事態を引き起こしています。これから建築分野で活躍する皆さんは、これまで以上に地域の実情、特性を理解した上で、地域に必要とされ、地域再生に役立つ建築物を構築、保全していく能力が求められます。本講義では、地域づくりの成功事例など具体的な取り組みを中心に理解し、これからの建築学の基礎となる地域再生の考え方や思考法を修得することを目的とします。						
授業の概要	本講義では、地域再生の手法を体系立てて学ぶだけでなく、実際に地域再生に携わる方々の視点での講義や教員が関わった地域での体験談、成功・失敗体験を聴く機会を多く設けます。体系と具体例を学ぶことで、地域再生に共通するキーを知り、建築学の視野を広げていくようにします。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「ディスカッション、ディベート」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦(大分県土木建築部における大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政) 「地域における河川等自然環境と地域創生に関する講義」						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】				
【知識・理解】	①地域コミュニティー、地域経済、地域資源の現状を正しく理解できる ②地域特性ごとの具体的な地域再生の事例を理解している ③地域再生の手法を正しく理解できる	30点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	④地域再生の手法を用いて、地域特性にあった地域再生の方法を提案できる	30点	20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
各担当教員よりレポートを課します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします(各教員8点)。レポートについては、原則として次回以降の授業中に返却し、講評・解説します。また、各担当教員より期末試験問題を出題します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします(各教員12点)。

○その他

## 2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	地域再生論 (Community Revitalization)	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
<b>学修内容</b>				
<b>1. 地域コミュニティの現状と地域再生 (担当: 池畑)</b> ■地方分権 ■市町村合併 ■高齢化 ■限界集落 日本特に地域社会はこれまでに経験したことの無い時代を迎えようとしています。上にあげた内容によりながら、日本の地方の現状と課題について講義します。				
予習	人口減少と高齢化社会が地域に及ぼす影響について、可能な限り調べる。			約2時間
復習	講義を踏まえ、地域の豊かさに何が必要か、それぞれ自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>2. 地方経済の現状と地域再生 (担当: 吉村)</b> ■地場産業 ■6次産業化 ■地域振興 地域振興・地域活性化を考える上で、地域経済や自治体の現状や課題を知ることが重要です。本授業では、まず自治体がまちづくりの観点から課題と考えていること及び現在進行形の地方創生政策を解説します。次に、大分及び九州の経済の特徴や状況を図表から理解し、地方再生を考える前提となる現状について理解します。Googleフォームの使用及びペアワークを行います。				
予習	まち・ひと・しごと創生総合戦略とは何か。概要について調べて下さい。			約2時間
復習	RESAS(地域経済分析システム)を使用し、授業内で指定したテーマについて地域の現状をまとめて下さい。			約2時間
<b>3. 地域ブランドと特産物ブランドへの取り組み (担当: 吉村)</b> ■ブランドとは ■地域ブランドの種類 ■「関あじ関さば(大分市)」を中心に 地域再生において、その地域の特産品や資源を活用することが重要です。本授業では、地域ブランドの概要及びそれを活かした政策について解説します。また、地域ブランドを保護する政策として「地域団体商標」を取り上げ、その活用例として大分市佐賀関地区の取り組みについて解説します。地域ブランドを活かした地域再生法について理解します。				
予習	地域団体商標とは何か。概要について調べて下さい。			約2時間
復習	地域団体商標及び地域ブランドを活かした活性化策についてレポートを課します。			約2時間
<b>4. 観光ツーリズムへの取り組み (担当: 吉村)</b> ■「由布院のまちづくり(由布市)」を中心に 地域再生の切り札として、観光振興・観光ツーリズムが注目されています。本授業では、まず観光政策の現状について解説します。次に最近のツーリズムの形態の変化や地域ツーリズムの具体的な分野について解説します。観光ツーリズムの先進地として有名な由布院のまちづくりを事例に観光ツーリズムを活かした地域再生法について理解します。				
予習	訪日観光客の現状について調べて下さい。			約2時間
復習	由布院のまちづくりをテーマにレポートを課します。			約2時間
<b>5. アートによる地域づくり (担当: 島岡)</b> ■アートとは ■日本各地の例 ■「大分市」と「別府市」における活動と可能性 近年日本各地では、新しい美術館活動、芸術祭など芸術活動を起爆剤としたによるまちづくりや地域づくりが見られます。上にあげた内容によりながら、アートによる地域づくりの可能性と課題について講義します。				
予習	アートによる地域づくりとはどのようなことか、いくつか具体例を調べておく。			約2時間
復習	大分市において、どのようなアートによる地域づくりが可能か、自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>6. 景観形成 (担当: 島岡)</b> ■景観とは－真鶴町と「美の条例」 ■景観法と景観条例－実例と課題 ■いくつかの景観論争から学ぶこと まちは変化していきますが、その中ですぐれた景観形成のためにどのようなことが問題となってきたか、そしてどのような課題があるかについて講義します。				
予習	景観形成や景観保全とはどのようなことか調べる。			約2時間
復習	時代の変化の中ですぐれた景観を形成することの可能性と課題について、自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>7. 歴史的まちづくり (担当: 島岡)</b> ■歴史的町並みの保存の例 ■大分県における小城下町や昭和の町(豊後高田市)における実例 ■まちにおける「歴史」の意味 上にあげた内容によりながら、まちの空間の豊かさにおける歴史的蓄積の意味について講義します。				
予習	歴史的町並み保全においてどのようなことが行われているのか、具体例をあげ調べておく。			約2時間
復習	歴史的にあるいは現代的に魅力的なまちを例に挙げ、まちの魅力とは何か、自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>8. 地域資源を災害から考える (担当: 池見)</b> ■地域再生や地方創生といった言葉の裏では、過疎化、限界集落、地方都市消滅、都市の過密化という問題が見え隠れします。この回では、このような視点から地域再生を支えるであろう地域資源とは何かについて考えます。その中でリスボン地震や明治維新などについて、別の観点から紹介します。				
予習	地域資源とはなにかを考察し、自分なりの考えをまとめる。			約2時間
復習	防災という観点から地域資源とは何かをまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名	地域再生論 (Community Revitalization)	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
<b>学修内容</b>				
<b>9. グスコープドリの世界から考える地域資源 (担当: 池見)</b> ■1995年の兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)では国内の防災への考え方が大きく変わり、ハードによる防災からソフトによる防災／減災という言葉が生まれました。自助や共助、自己責任といった言葉が出てきたのもこの頃です。そして東北地方太平洋地震(東日本大震災)では、減災が一般化して、さらに国土強靱化というスローガンが新たに加わっています。このような国内の防災に対する考え方の変化について、宮沢賢治原作の「グスコープドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。				
予習	「グスコープドリの伝記」を読む。			約2時間
復習	「グスコープドリの伝記」を防災という観点から読み直す。			約2時間
<b>10. ミティゲーションとレジリエンス (担当: 池見)</b> ■その2と同様に、この回でも、宮沢賢治原作の「グスコープドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。また、日本の防災の考え方の基本は消防だと言われてます。その問題点に対して、ミティゲーションとレジリエンスをキーワードにして、大分県の斜面災害から米国の災害管理サイクルモデル、欧州の圧力緩和災害モデルについて考えます。				
予習	「グスコープドリの伝記」を防災という観点から読み直す。			約2時間
復習	これまで講義から災害という観点から地域資源とは何かについてレポートにまとめる。			約2時間
<b>11. 生物多様性の保全の取り組み (担当: 中西)</b> ■世界・日本・大分県・県内市町村における生物多様性の保全 生物多様性の保全が叫ばれて久しく、SDGsの中でも生物多様性の保全が謳われている。これまでの世界的な生物多様性の保全に関する取り組みから、日本、大分県、大分県内の市町村単位での実際の取り組みについて学び、自分たちが地域単位で取り組める活動について考えます。				
予習	生物多様性国家戦略について調べる。			約2時間
復習	生物多様性の保全に関するレポートを課します。			約2時間
<b>12. 防災と利用、自然環境の保全を両立させた地域再生 (担当: 中西)</b> ■河川法の変遷に見る防災、自然利用、環境保全とグリーンインフラについて 昨今多発、激甚化する災害の復旧について、かつては防災と自然環境保全は相反するものであったが、河川法改正に伴い進んだ多自然型川づくり、それをさらに進めた形で取り組まれている多自然川づくりを例に、防災インフラの整備と自然環境保全の両立の現在、近年注目されているグリーンインフラの内容とその必要性について、大分県内の実例をもとに学習します。				
予習	河川法の変遷と多自然川づくりについて調べる。			約2時間
復習	グリーンインフラについてのレポートを課します。			約2時間
<b>13. 自然環境の利用と保全 (担当: 中西)</b> ■里山の保全と森里海川の連携 人間が生活することで自然環境の価値が向上する里山。この人間と自然との共存の考え方をもとに山域部の里地・里山から海域に至っては里海として同様の考え方が広がってきています。これら里山の保全の必要性と、森は海の恋人活動などをはじめとした山域から海域に至る連携について、大分県内の実例をもとに学習します。				
予習	SATOYAMAイニシアティブについて調べる。			約2時間
復習	里地・里山・里海保全に関するレポートを課します。			約2時間
<b>14. 「共助社会づくり」による新たな地域づくり (担当: 池畑)</b> ■NPOによる地域づくり これからの地域づくりを考える上では、自助・共助・公助のそれぞれの考え方を理解し、上手に組みあわせていくことが重要です。その橋渡し役として、NPOの存在が重要となっています。本授業では、まず共助社会づくりの現状について解説します。次にその中心となるNPOについて、その概要及び事例を解説します。NPOを活用した地域再生法について理解します。				
予習	「世界農業」の仕組み、および「世界遺産」との相違について事前に学習し、その要点をまとめる			約2時間
復習	「世界農業遺産」による地域再生の他の複数の事例も調査して、その特徴と課題を明確にする			約2時間
<b>15. 魅力ある地域づくりのために (担当: 全教員)</b> ■シンポジウム ■住民生活の再生 ■生活・文化 ■防災と自然環境 ■創造と活動				
予習	これまでの授業内容についてまとめ、疑問点を整理して下さい。			約2時間
復習	シンポジウムを踏まえて、授業内容から学んだことをあらためて整理して下さい。			約2時間
<b>16. 期末試験</b> 試験時間90分。				
予習				
復習				



授業科目	大分の観光と文化 / Tourism and Culture of Oita		
担当教員 (所属)	晴谷 憲洋(国際総合学科), 宮野 幸岳(国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科, 交換留学	対象学年	1年, 2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>専門分野を異にする(観光学・歴史学)国際総合学科教員2名が、その専門領域を生かしながら、「大分の観光と文化」についてオムニバス形式の講義を行う。大分の観光振興に活躍するゲスト講師の講義も予定している。この授業の目的は以下のとおりである。</p> <p>大分の観光や文化についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>地元出身者にも意外に知られていない観光資源としての大分の魅力を再認識する。</p> <p>観光振興の戦略や問題点について認識する。</p> <p>大分の観光振興について主体的に考える態度を養う。</p>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 観光県おおいたの基礎知識 (晴谷)</li> <li>3. 観光県おおいたの基礎知識 (晴谷)</li> <li>4. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷)</li> <li>5. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷)</li> <li>6. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷)</li> <li>7. 大分の国際交流と観光(外部講師・予定)</li> <li>8. 郷土の歴史と観光(学外実習・予定)</li> <li>9. 大分の環境と観光(宮野)</li> <li>10. 大分のスポーツと観光(外部講師・予定)</li> <li>11. 大分の観光における現状理解(宮野)</li> <li>12. 統計学基礎と観光戦略立案の手法(宮野)</li> <li>13. 大分の観光振興における課題(宮野)</li> <li>14. 観光振興の実務(外部講師・予定)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>スケジュールは変更する場合があります。</p>			
<b>準備学習等</b>			
各担当教員が講義中に指示します。			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
各教員が課すレポート(70%)と平常点(30%)で評価します。			
<b>教科書</b>			
講義中に資料やプリントを配布します。			
<b>参考図書</b>			
辻野功『大分学』『大分学』明石書店 辻野功/橋本謙司/大分学研究会(編著)『まるごとわかる大分県』明石書店			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
<p>日頃から、大分の観光情報や観光スポットについて意識しておくこと。また、履修評価の必須条件ではありませんが、県内外、国内外の観光動向に関わる情報をファイリングしておくことを推奨します。</p> <p>また、学外講師の都合等により、講義の順序・形態が変更されることがあります。</p> <p>C-learningを用いて通知しますので注意してください。</p>			

授業科目	ヨーロッパの文化と社会 / Culture and Society of Europe		
担当教員 (所属)	高瀬 圭子(国際総合学科), 前山 悠(国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義科目
対象所属	国際総合学科, 交換留学	対象学年	2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>中央ヨーロッパのドイツ語圏と、西ヨーロッパに位置するフランス共和国を主な対象として取り上げ、それぞれの文化と社会の諸相について理解することを目的とする。前半では、まずEUとドイツ語圏について概観し、次いでドイツを中心に、中世から現代に至る歴史と、その中で生み出された芸術文化について、社会との関わりの中で論じてゆく。特に、二つの世界大戦の前後の状況に焦点をあててゆくことにしたい。後半では、フランス語圏の文化と歴史を扱う。フランス・スイスを中心に、言語、宗教、政治、人種、芸術、ジェンダーなど、様々な観点から他文化理解を図る。</p> <p>到達目標は次の通り。</p> <p>ドイツ語圏の国々の文化、社会、歴史について、基本的な知識を得る。 フランス語圏の文化や社会について基本的な知識を得る。 ヨーロッパ文化の諸相を知ることを通じて、多様な文化を理解し、尊重する態度を身につける。</p>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. EU、ヨーロッパのドイツ語圏</li> <li>3. ドイツの文化と社会I : 地方分権の伝統</li> <li>4. ドイツの文化と社会II : 政治的統一と文化</li> <li>5. ドイツの文化と社会III : 大戦間期のドイツ</li> <li>6. ドイツの文化と社会IV : 第二次世界大戦とホロコースト</li> <li>7. ドイツの文化と社会IV : 第二次世界大戦とホロコースト</li> <li>8. ドイツの文化と社会V : 戦後ドイツの社会</li> <li>9. 「共通語」の歴史—ラテン語から 에스ペラント語まで</li> <li>10. 宗教改革—カトリックとプロテスタント</li> <li>11. フランス革命、その光と闇</li> <li>12. ギロチンと死刑制度の歴史</li> <li>13. ドレフュス事件、ユダヤ人問題</li> <li>14. スイスの精神病院と芸術の関係</li> <li>15. フランスのパートナーシップ制度—PACS、同性婚、養子縁組</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
授業内で紹介する、ドイツやフランスに関わる本を積極的に読んでください。			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
前半(50点)と後半(50点)の成績を総合して、評価します。			
<p>&lt;ドイツ&gt; 平常点60%(コメントペーパー・提出課題)、レポート40% 初回の全体ガイダンスにて詳細を説明します。</p> <p>&lt;フランス&gt; 平常点60%(コメントペーパー等)、レポート40% レポートについては、初回の全体ガイダンスの際に説明します。</p>			
<b>教科書</b>			
教科書は使用しません。			
<b>参考図書</b>			
<p>森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための50章』、明石書店、2016年。 宮田真治・畠山寛・濱中春編著『ドイツ文化55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2015年。 柴田三千雄『フランス史10講』、岩波新書、2006年。 田村毅監修・鈴木雅生・福島勲編、『フランス文化読本』、丸善出版、2014年。 『パリ、ジュテーム』、DVD、2006年。</p>			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
<p>ドイツ語・フランス語の授業を履修していなくても受講できます。 成績評価を受けるためには、出席状況が規定を満たしている必要があります。 初回は、担当教員二人による全体のガイダンスを行いますので、必ず出席してください。</p>			

授業科目	近現代世界の歴史 / History of the Modern World		
担当教員 (所属)	疇谷 憲洋 (国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科, 交換留学	対象学年	2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の世界情勢につながる現代史の展開について、基本的概念と基礎知識を習得する。</li> <li>・ 日本と世界の現代史について、一冊のテキストに則して深く学習することを通じて、世界の様々な事件や事象に関して、批判的かつ理性的に考える態度を身に付ける。</li> </ul>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2022年: 「いま」と歴史</li> <li>2. 占領下の日本</li> <li>3. 占領下の日本</li> <li>4. そのころ世界は</li> <li>5. 冷戦と講和</li> <li>6. 冷戦と講和</li> <li>7. そのころ世界は</li> <li>8. 高度成長の時代</li> <li>9. 高度成長の時代</li> <li>10. そのころ世界は</li> <li>11. 経済大国への道</li> <li>12. 経済大国への道</li> <li>13. そのころ世界は</li> <li>14. 現代の世界と日本</li> <li>15. 現代の世界と日本</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義内容で分からないところは教科書・プリントで再確認してください。</li> <li>・ 自分のこれまでの人生で、世界で起こった出来事について想起しておいてください。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
小レポート (40%) と、まとめレポート (70%) で評価します。			
<b>教科書</b>			
教科書: 老川慶喜 『もう一度読む山川日本戦後史』 山川出版社			
<b>参考図書</b>			
『もう一度読む山川世界史』 山川出版社 NHK 『映像の20世紀』 (DVD、本学図書館所蔵)			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
日ごろから、政治・経済関連のニュースに興味を持っておいてください。			

授業科目	社会心理学 / Social Psychology		
担当教員 (所属)	吉山 尚裕 (情報コミュニケーション学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科, 交換留学	対象学年	2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>社会心理学は、対人関係や集団の中での人間心理を研究します。この授業では、社会的欲求、対人認知、対人魅力、对人的影響をテーマに取り上げ、他者との関わりを通して人間の心がどのように動くのか（働くのか）について学習します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対人関係や対人行動を記述・説明するための概念（専門用語）や理論を説明できる。</li> <li>2) 習得した概念や理論を使って、対人関係や対人行動の心理を説明できる。</li> <li>3) 社会心理学的な考え方を日常生活に活かすことができる。</li> </ol>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学の特質と方法</li> <li>2. 性格と欲求</li> <li>3. あなたの欲求の特徴は？</li> <li>4. 欲求の理論</li> <li>5. 攻撃行動と防衛反応</li> <li>6. 対人認知とは</li> <li>7. 対人認知の手がかり</li> <li>8. 対人認知の歪み</li> <li>9. 青年期の恋愛</li> <li>10. あなたの恋愛タイプは？</li> <li>11. 他者に魅力を感じる時</li> <li>12. 援助するとき、しないとき</li> <li>13. 説得と要請の心理</li> <li>14. 集団の心理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
事前にCラーニングで配布するパワーポイント（配布資料）を予習や復習に活用してください。			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
平常点（40％）と期末テスト（60％）			
<b>教科書</b>			
使用しません。			
<b>参考図書</b>			
池田・唐沢・工藤・村本著「社会心理学 補訂版」（有斐閣） 上野・岡本・相川編「人間関係を支える心理学」（北大路書房）			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
毎回、授業の終わり頃、「ミニレポート」の提出を求め、平常点とします。教室で授業を行う場合は、質問や応答をしやすいように座席指定を行います。			

授業科目	産業・組織心理学 / Industrial and Organizational Psychology		
担当教員 (所属)	吉山 尚裕 (情報コミュニケーション学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	情報コミュニケーション学科	対象学年	2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>20世紀初頭に誕生した「産業心理学」は、組織への関心の高まりに伴い、「産業・組織心理学」へと発展しています。この授業では、企業や官公庁などの組織を念頭におき、働く人間と職場集団に関する心理学的理解を深めることを目的とします。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>1) 組織の人間行動を記述・説明するための概念 (用語) や理論を理解している。</p> <p>2) 習得した概念や理論を使って、組織の人間行動について説明できる。</p> <p>3) 産業・組織心理学的な考え方を社会生活に活かすことができる。</p>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 事例研究：後回しにされた仕事</li> <li>3. 組織とは何か</li> <li>4. 科学的管理法</li> <li>5. 人間関係論</li> <li>6. 行動科学 (動機づけと職務設計)</li> <li>7. グループ・ダイナミクス</li> <li>8. 集団の規範と凝集性</li> <li>9. 事例研究：報告を怠ったとき</li> <li>10. リーダーシップとは何か</li> <li>11. リーダーシップの理論</li> <li>12. リーダーシップの効果</li> <li>13. 組織における意思決定</li> <li>14. 意思決定の落とし穴</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
<p>事前にCラーニングで配布するパワーポイント (配布資料) を予習や復習に活用しよう。働く人間や組織を取り上げた新聞記事やテレビ番組を見よう。授業で紹介する本を読もう。</p>			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
平常点 (40%) と期末テスト (60%)			
<b>教科書</b>			
教科書は使用しません。			
<b>参考図書</b>			
<p>外島裕・田中堅一郎編「産業・組織心理学エッセンシャルズ」(ナカニシヤ出版)</p> <p>山口裕幸編「コンピテンシーとチーム・マネジメントの心理学」(朝倉書店)</p>			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
<p>毎回、授業の終わり頃、「ミニレポート」の提出を求め、平常点とします。教室で授業を行う場合は、質問や応答をしやすいように座席指定を行います。</p>			

授業科目	現代社会論 / Modern Society		
担当教員 (所属)	安部 尚紀(情報コミュニケーション学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	情報コミュニケーション学科	対象学年	1年,2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>さまざまな社会学者と彼らが行った課題、授業中に提示される命題、映像やマンガなどの素材を切り口にしながら、(1)社会学の方法論や理論について受講者なりに全体像を持ち、表現することができること、(2)特に現代社会の変容や社会問題について、自分自身の問題として翻訳し、論述できるようになること、が到達目標です。</p> <p>この授業の旧名は「社会学概論」でした。その名が示す通り、社会学の基礎を学んでいく必修講義です。</p>			
<b>各回の授業内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 社会学とは何か (E.デュルケム)</li> <li>2. 社会の基礎データ (人口統計学的環境・経済環境・技術環境・政治法律環境・社会文化環境 M.ウェーバー)</li> <li>3. 社会学方法論と「思想」(K.マルクス)</li> <li>4. 地域社会 (L.ワース、R. M.マッキーバー)</li> <li>5. 社会学の使い方 (中間まとめ)</li> <li>6. 家族、社会システム (T.パーソンズ)</li> <li>7. ジェンダー コミュニケーションの多様性</li> <li>8. 社会化 方法論的個人主義VS全体主義</li> <li>9. 消費・ライフスタイル、価値観</li> <li>10. アイデンティティ (C.H.クーリー、G.H.ミード)</li> <li>11. 価値の交換、物象化</li> <li>12. 【実習】レポート課題の検討 他者評価とディスカッション</li> <li>13. デモクラシー</li> <li>14. 新しい公共性と情報化 (A.ギデンズ)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
<p>講義プリントとコメント用紙を配布します。</p> <p>日常生活での出来事をよく観察し、違和感を書きとめておくこと。また、情報コミュニケーション学科の地域ビジネス専攻を希望している受講者は、参考文献を入手し、通読してくること。</p>			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
平常点 (60%) とレポート (40%) を総合して評価。講義中に説明するループリックも参照してください。			
<b>教科書</b>			
教科書は講義中に指定します (2000円程度)。毎回、講義資料を配布する。			
<b>参考図書</b>			
栗田宣義、2012、『マンガでわかる社会学』、オーム社 (1900円)			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
<p>情報コミュニケーション学科の1年生は、必修科目であるため、全員受講となります。他学科の学生も社会学を基礎から学べるため、担当教員の他の講義の履修を考えている場合、履修してほしい。</p> <p>(1) 担当教員の他の講義と同じく、グループディスカッションや個人でマイクを使って受講者との対話を求めることが多い。  (2) 授業の中でも最新の動向を紹介するが、ぜひ日頃から新聞や雑誌を読む習慣をつけるようにしてほしい。</p> <p>履修登録に当たって、どの授業を受けようか迷うこともあるでしょう。そんなときは、その先生が書いた著書や学術論文を探してみることで。大学教員というのは教育者であると同時に、専攻分野で最先端の研究をしている人でもあります。googleやgeniiで検索すると、たくさん見つかるでしょう。(参考URL) <a href="http://researchmap.jp/abenaoki/">http://researchmap.jp/abenaoki/</a></p>			

授業科目	地域づくり論 / Regional Development		
担当教員 (所属)	安部 尚紀(情報コミュニケーション学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	情報コミュニケーション学科	対象学年	1年 ,2年
<b>授業の目的・到達目標</b>			
<p>地域社会が抱える問題について理解し、それらの解決に向けた地域づくりのさまざまな手法について学ぶことを目的とします。そのなかで、みなさん自身が地域の担い手となるための知識の習得を目指します。</p> <p>毎回の講義中に提示されるさまざまな映像コンテンツや事例について、分析のための視点を習得し、自分自身の立場を把握し、事例や方法論を通して、「地域」「地域づくり」の具体的イメージを持ち、レポート・口頭発表等の形で提言できるようになることが、受講者の最終目標です。</p>			
<b>各回の授業内容</b>			
<p>主に社会学の知見に基づいて、地域づくりの事例や理論について学びます。ニュースやビジネス番組、その他の動画を視聴する機会も多いです。</p> <p>昨年度の例(これまで例年、変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 地域社会論の系譜</li> <li>3. 「地域」の定義と基礎データの視点(人口統計学的環境・経済環境・技術環境・政治法律環境・社会文化環境)</li> <li>4. 地域社会の諸問題、コミュニティ崩壊論、対策の成功事例</li> <li>5. 情報技術の応用、組織とネットワーク</li> <li>6. グループ実習 (文化、歴史)</li> <li>7. 商店街と大規模店舗、24時間営業、ネット通販</li> <li>8. ライフイノベーション(福祉・防災)</li> <li>9. グリーンイノベーション(環境)</li> <li>10. 都市計画、データの可視化</li> <li>11. 地域づくりと観光(ツーリズム)</li> <li>12. 地域を経営する(産業振興)</li> <li>13. レポート準備とディスカッション</li> <li>14. グループ実習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>準備学習等</b>			
<p>そのつど指示します。</p> <p>以下も参照し、自分の住んでいる市町村、地元の商店街や産業、その他の特徴について、講義中、何らかの意見を言えるように気をつけておいてください。</p> <p><a href="https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%B8%82%E3%81%AE%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E9%A0%86%E4%BD%8D">https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%B8%82%E3%81%AE%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E9%A0%86%E4%BD%8D</a></p>			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
<p>平常点(60%)とレポート(40%)を総合して評価します。グループ報告などの点数も平常点に含みます。</p>			
<b>教科書</b>			
教科書はありませんが、毎回、講義資料を配布します。			
<b>参考図書</b>			
講義中に紹介します			
<b>履修の条件・注意事項</b>			
<p>日頃から地元紙や市の広報に目を通すなど、身近な地域社会の現状に関心をもつことを期待しています。</p> <p>履修登録に当たって、どの授業を受けようか迷うこともあるでしょう。そんなときは、その先生が書いた著書や学術論文を探してみることで、大学教員というのは教育者であると同時に、専攻分野で最先端の研究をしている人でもあります。googleやgeniiで検索すると、たくさん見つかるでしょう。(参考URL) <a href="http://researchmap.jp/abenaoki/">http://researchmap.jp/abenaoki/</a></p>			

授業科目	ヨーロッパの歴史 / History of Europe		
担当教員 (所属)	疇谷 憲洋 (国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科, 美術科美術専攻, 音楽科, 情報コミュニケーション学科, 交換留学, 美術科デザイン専攻	対象学年	1年, 2年
授業の目的・到達目標			
<p>EUによるヨーロッパ統合・拡大や「ユーロ危機」など、何かと注目される「ヨーロッパ」について、他の文化圏との交流といった側面も踏まえながら、通史として把握することが出来る。 現在のEUの「統一の中の多様性」という概念を、歴史的に理解することが出来る。</p>			
各回の授業内容			
<p>(予定)</p> <p>導入 - コインから見えるヨーロッパ - (第一回)</p> <p>環境と人間 - ヨーロッパの基層 - (第二回 ~ 第三回)</p> <p>ゆりかごとしての地中海 - ヨーロッパ世界の形成 - (第四回 ~ 第六回)</p> <p>イスラームとルネサンス - ヨーロッパ文化の形成 - (第七回 ~ 第九回)</p> <p>大西洋を越える - グローバリゼーションに向けて - (第十回 ~ 第十二回)</p> <p>「革命」と「帝国」 - グローバリゼーションに向けて - (第十三回 ~ 第十五回)</p>			
準備学習等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の時に使用した世界史の教科書がある人はそれを準備しておいてください。</li> <li>・各自で講義内容を整理し、疑問があるときには気軽に質問してください。</li> </ul>			
成績評価の方法・基準			
各單元ごとのミニレポート (25%) と、最終試験 (75%) で判断します。			
教科書			
プリントを作成し、適宜参考文献を紹介します。			
参考図書			
講義の中で紹介します。			
履修の条件・注意事項			
高校で世界史が苦手だった人も、これを機会にヨーロッパの歴史を学んでください。			



科目コード	科目名	実務経験のある教員による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
						生活	療法	樹木	フラウ
38 S K 11 AL	ガーデニング概論		地域力	2	摺崎宏	◎	○		
学習成果	学習成果 5)応用的専門知識								
授業の概要	各地の庭を訪れて緑や花を楽しんだり、自宅でベランダ園芸や家庭菜園を楽しんだり、ガーデニングは日々の生活に密着しており、私たちの心を豊かにしてくれる。また、ガーデニングは人と人との心の絆を深め、地域連携のコミュニケーションツールとしての役割も期待されている。本講座では、様々なガーデンスタイルとガーデニングに関する基本的な知識・技術(基準地:大分)を学ぶ。								
授業の形式	講義(アクティブラーニングを含む)								
到達目標と対応する学習成果	① 世界の庭の歴史と様式について説明することができる					学習成果 5)応用的専門知識			
	② 大分における季節ごとの園芸作業のポイントについて説明することができる					学習成果 5)応用的専門知識			
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
履修上の注意点/試験やレポート等に対するフィードバックの方法	・各回の授業でレポート課題がある。毎回のレポートは返却する。 ・「生活園芸士」資格を希望するものは必ず履修し、単位修得しなければならない。 ・Google Classroomを利用して授業(資料配布、課題提出)を行うので各自登録すること。								
評価の方法と基準	各回のレポート、定期試験で評価する。 学習成果5)応用的専門知識100点 (到達目標①50点、到達目標②50点。それぞれレポート80%、定期試験20%)								
教科書	適宜、プリントを配布する								
参考書	・ ・ ・								
授業計画	回	授業内容			アクティブラーニング	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	ガーデニングの定義:ガーデニングの定義を考え、まとめる			○	講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	2	ガーデニングの歴史とスタイル①:イングリッシュガーデン				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	3	ガーデニングの歴史とスタイル②:プラントハンターの役割				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	4	ガーデンの種類①:イギリスのガーデンスタイル(ナショナルトラスト)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	5	ガーデンの種類②:イギリスのガーデンスタイル(ナショナルトラスト)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	6	ガーデンの種類③:イギリスのガーデンスタイル(ベスタチャーガーデン)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	7	ガーデンの種類④:イギリスのガーデンスタイル(イエローブック)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	8	ガーデンの種類⑤:世界遺産の庭園				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	9	ガーデンの種類⑥:中国の庭園				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	10	ガーデニングの基本:ガーデニングに用いる道具、基本的作業				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	11	春のガーデニング:春のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	12	夏のガーデニング:夏のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	13	秋のガーデニング:秋のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	14	冬のガーデニング:冬のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	15	様々なガーデンスタイル:ハンギングバスケットのポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)提出すること。定期試験対策をすること。			
16	定期試験(試験時間は60分)								

科目コード	科目名	実務経験のある教員による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
						生活	療法	樹木	フラワ
# S K # NO	畜産学	○	地域力	2	小野直幸〈実〉				
学習成果	学習成果 5)応用的専門知識								
授業の概要	現在の食生活に身近な畜産物の生産システムなどは、畜産技術の発展が大いに貢献している。この畜産技術発展の基が畜産学であり、受講生はこの畜産学の応用的専門知識(大分県の実情も含め)を理解してほしい。また、近年では公務員試験に畜産一般と題して数問が出題されている。その対策にも役立つのではないかとと思う。								
授業の形式	講義								
到達目標と対応する学習成果	① 我が国における畜産農業の位置づけを理解し、それを他人へ表現することができる。					学習成果 5)応用的専門知識			
	② 家畜の飼育環境、生理・生態を理解し、他人へ表現することができる。					学習成果 5)応用的専門知識			
	③ 飼料の生産と利用について理解し、他人へ表現することができる。					学習成果 5)応用的専門知識			
	④ ブタ、ニワトリ、ウシ等の家畜について理解し、他人へ表現することができる。					学習成果 5)応用的専門知識			
	⑤								
	⑥								
履修上の注意／試験やレポート等に対するフィードバックの	今後重要となる耕種農業との連携の意識を持ってほしいので、飼料作物学も併せて受講することが望ましい。また、毎回の講義で前回の講義の振り返りを行う時間を設けるので、受講生は各自で要点の整理を行うことが望ましい。Googleでのclassroomを用いた講義を行う場合もあるので、各自PC等を用意しておくこと。								
評価の方法と基準	定期試験で評価する。 学習成果5)応用的専門知識100点(到達目標①10点、到達目標②20点、到達目標③10点、到達目標④60点。それぞれ定期試験100%)								
教科書	適宜プリントを配付								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>増改訂版 畜産学概論 上坂章次著 養賢堂(図書館に蔵書○)</li> <li>農学基礎セミナー家畜飼育の基礎 並河澄ら 農文協(図書館に蔵書○)</li> <li>畜産 阿部亮著 農文協(図書館に蔵書○)</li> <li>最新 畜産ハンドブック 扇元敬司ら 講談社(図書館に蔵書○)</li> </ul>								
授業計画	回	授業内容			フレイブ レーン グ	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	世界の畜産業及び我が国農業における畜産農業の位置づけ			○	1回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。2回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	2	家畜の飼育環境、生理・生態①各畜種ごとの飼育環境			○	2回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。3回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	3	家畜の飼育環境、生理・生態②各畜種ごとの生理生態、環境への適応			○	3回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。4回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	4	家畜の飼育環境、生理・生態③各畜種ごとの糞尿処理			○	4回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。5回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	5	飼料の生産と利用①飼料作物の種類・利用			○	5回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。6回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	6	飼料の生産と利用②飼料の調製、草地の管理			○	6回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。7回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	7	主要家畜について ブタ①品種と改良			○	7回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。8回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	8	主要家畜について ブタ②飼育技術			○	8回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。9回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	9	主要家畜について ブタ③産物の利用			○	9回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。10回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	#	主要家畜について ニワトリ①品種と改良			○	10回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。11回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	#	主要家畜について ニワトリ②飼育技術			○	11回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。12回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	#	主要家畜について ニワトリ③産物の利用			○	12回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。13回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	#	主要家畜について ウシ①品種と改良			○	13回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。14回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
	#	主要家畜について ウシ②飼育技術			○	14回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。15回目の授業予定の内容を予習する(約30分以上)。			
#	主要家畜について ウシ③産物の利用			○	15回目の授業で学習した内容を復習する(約30分)。定期試験に向けて、今まで学習した内容をまとめておく(約30分以上)。				
#	定期試験								

科目コード	科目名	実務経験のある教員による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
						生活	療法	樹木	フラワ
56 S K 21 HT	園芸療法 I	○	地域力	2	小石鉄兵 (欠)		◎		
学習成果	学習成果 5) 応用的専門知識								
授業の概要	園芸療法では、植物が人に与える効能について、福祉的かつ療法的視点で学ぶ内容である。また、園芸療法士を目指す学生の入門編として位置づけられており、園芸療法の基礎を総論的に学ぶことをねらいとする。すなわち、園芸療法とは何か、園芸療法はどんな場でどのように活用されるか、園芸療法はなぜ効果を期待できるかについて理解を促し、園芸療法を実施する療法士としての心構えを養成する。								
授業の形式	講義を中心に行う。合わせてグループによるワークショップも実施する。								
到達目標と対応する学習成果	① 植物が人に与える効能について、福祉的かつ療法的に活用し期待される効果を説明できる						学習成果 5) 応用的専門知識		
	② 園芸療法の原理と原則を説明できる						学習成果 5) 応用的専門知識		
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
履修上の注意点/試験やレポート等に対するフィードバックの方法	講義では、グループワークを活用して展開するため、班のメンバーに負担がかからないように、健康管理に十分注意して受講してほしい。フィードバックについては、その都度、口頭およびホワイトボードを用いて行う。								
評価の方法と基準	学習成果 5) 100点 (内訳: 発表(アクティブラーニング) 50点分(回数によって点数は案分)、定期試験 50点分)								
教科書	適宜資料を配布する。								
参考書	・山根 寛ほか「園芸リハビリテーション」 医歯薬出版								
	・								
	・								
	・								
授業計画	回	授業内容			アクティブラーニング	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	園芸療法とはなにか			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	2	園芸療法から植物介在療法へ				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	3	園芸療法の歴史的展開				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	4	諸外国における園芸療法①				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	5	日本における園芸療法				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	6	園芸療法の対象者 1) 心身に療法的かかわりが必要な人①			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	7	園芸療法の対象者 1) 心身に療法的かかわりが必要な人②			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	8	園芸療法の対象者 2) 高齢者で療法的かかわりが必要な人①			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	9	園芸療法の対象者 2) 高齢者で療法的かかわりが必要な人②			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	10	園芸療法の実施計画 プログラム、実施、評価(基礎)			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	11	対象者の情報収集				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	12	園芸療法プログラム			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	13	プログラムの実践、実施後の評価				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	14	園芸療法の可能性				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	15	留意事項・まとめ				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
16	定期試験								

2L1N210010		授業科目名 (英文名)		宗教学 I (Religious Studies I)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		○
学年	1年	学期	前期	卒業 必修・選択	必修	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		緒方 義英			担当形態		単独			
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 本授業では、前半で原始宗教、民族宗教、世界宗教を取り上げ、それぞれの特色から「宗教の本質と意義」について考察する。後半では、釈尊の生涯と教えを取り上げて、人生苦の問題とその解決法について考察する。講義は、担当教員の用意するプリントを中心に進めるが、適宜、DVD等の視聴覚教材を用いる。										
【授業の到達目標】 宗教、特に仏教に関する基礎的な教義の理解を通して、本学の「建学の精神」である大乘仏教の精神に触れ、心豊かな社会性のある人格を涵養する。 (1)宗教の本質と意義について考えることができる。 (2)世界の多様な思想について、柔軟で、幅広い見方ができる。 (3)釈尊の求道について説明することができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能		思考力・判断力・表現力		態度・志向性			
I：保育者基礎力										
II：子ども・家庭支援力										
III：保育実践力										
IV：社会人基礎力・社会貢献力			◎		○		○			
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			○						○	
			<具体的な方法> 対話型授業							
学修成果のフィードバック			課題は次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (70%)	( %)	課題・作品・ レポート (30%)	発表 ( %)	( %)	( %)	( %)	
学修成果 I	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 II	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 III	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果 IV	知識・技能		○		○					
	思考力・判断力・表現力		○							
	態度・志向性		○							

実務経験	有	高等学校教員（宗教） 浄土真宗本願寺派教師
実務経験をいかした教育内容		浄土真宗本願寺派教師の立場で日常的に法話をしており、その経験を生かして授業内容を工夫する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉「仏教聖典」（仏教伝道協会）、「さとりの知恵を読む」（仏教伝道協会）、「真宗保育の基礎」（真宗保育学会）、担当者が配布する教材
授業計画	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と学修成果の説明、建学の精神、浄土真宗の教章
第2回	宗教とは何か	宗教の本質と原始的宗教（課題1）
第3回	さまざまな宗教1	民族宗教① インドの宗教：バラモン教とジャイナ教
第4回	さまざまな宗教2	民族宗教② アラブの宗教：ユダヤ教（課題2）
第5回	さまざまな宗教3	民族宗教③ 東アジアの宗教 道教・儒教・神道（課題3）
第6回	さまざまな宗教4	世界宗教 キリスト教とイスラム教（課題4）
第7回	釈尊の生涯1	釈尊の誕生① 釈尊の周辺と時代背景
第8回	釈尊の生涯2	釈尊の誕生② 降誕伝説（課題5）
第9回	釈尊の生涯3	釈尊の誕生③ 三界と六道（課題6）
第10回	釈尊の生涯4	釈尊の求道① 四門出遊
第11回	釈尊の生涯5	釈尊の求道② 出家と修行（課題7）
第12回	釈尊の生涯6	釈尊の成道① 降魔成道（課題8）
第13回	釈尊の生涯7	釈尊の成道② 初転法輪（課題9）
第14回	釈尊の生涯8	釈尊の入滅 DVD「釈尊の生涯」鑑賞（課題10）
第15回	総括	これまでの授業内容の振り返り
定期試験		
準備学修	授業計画に示す項目について、テキストの当該ページを一読しておく。（各回1h）	
事後学修	授業計画に示す課題に向けて講義内容を振り返り、整理しておく。（各回1h）	
注意事項	配布する教材プリント、返却する課題及びレポートはファイリングしておくこと。	
備考	—	

					処理状態 完了
開設部局	食物栄養学科	科目名	温泉学	担当教員名	宮崎 博文
シラバスID	SH246272	共同担当教員名	由佐悠紀, 竹村恵二, 齊藤雅樹	単位数	2 / 講義
科目ID	SH1583010006	受講対象	食栄1	授業形態	オムニバス
開講期	集中	学びの三要素	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input checked="" type="checkbox"/> 主体性・意欲 <input checked="" type="checkbox"/> 就業力・協働		
アクティブラーニングの要素を含んでいるか		<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			
<input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、討論、ディベート		<input type="checkbox"/> グループワーク	
<input type="checkbox"/> プレゼンテーション、発表	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 実験、実技			
反転授業…知識修得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態					
<b>科目の到達目標</b>					
<p>①温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。</p> <p>②大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。</p> <p>③温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。</p>					
<b>授業の目的・概要</b>					
<p>「温泉コンシェルジュ修了証を取得する為の必修科目」</p> <p>講師が配布するテキスト及びパワーポイントスライド資料に基づいて講義を進める。特に、温泉コンシェルジュとして必要な知識や経験を身につけることを主眼に置く。地球科学的フィールドワークや温泉分析実習を取り入れながら、知識の習得のみに偏らない総合的な学習をめざす。</p> <p>また、温泉に関する最新の情報について、講義中に文献やウェブページにより紹介する。</p>					
<b>ディプロマポリシーとの関係</b>					
<p>はば広い教養と豊かな人間性を育む授業</p> <p>心と体の健康・癒し（いやし）のために、温泉をベースとしたプログラムを提案できる授業</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>この科目は、専門分野が多岐にわたることから、各分野を専門とする4人の講師によるオムニバス方式による講義を行う。</p> <p>1 温泉科学を学ぶ (I) ①②……由佐悠紀 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に、泉源・泉質の分布状況、温泉生成のメカニズムなどのテーマについて地球科学的観点から総合的に温泉を学ぶ。</p> <p>2 温泉科学を学ぶ (II) ③④……由佐悠紀 温泉の一般的な諸形態及び大分県の温泉、特に別府温泉の特徴を学び、大分県における温泉の開発と利用の歴史から将来にわたる温泉の利用と資源保護について考える。</p> <p>3 温泉の水質科学を学ぶ⑤⑥……宮崎博文 温泉の水質を化学的観点から学習し、温泉の化学成分の分析結果から泉質を決定する手順を学び、別府八湯の泉質の特徴を理解する。また、海水、河川水と同じ環境水としての温泉水の挙動を水質科学の観点から学習する。</p> <p>4 別府の地形と地質を学ぶ⑦⑧……竹村恵二 別府の地形と地質の特徴及び温泉への影響について地球科学的な観点から学ぶとともに、多くのスライド写真を用いた解説により理解を深める。また、温泉と裏腹の関係にある別府地域の活断層と地震の関係についても学習し、地震災害・津波に備える生活の在り方について考える。</p> <p>5 温泉学フィールド調査及び温泉分析実習⑨⑩……竹村恵二、宮崎博文 (複数) 亀川温泉の周辺を踏査し、地球科学的な面から火山的地形、地質、温泉・地獄などを観察する。また、別府温泉を代表する泉質の異なる4か所の温泉水を採取し、簡易測定キットを使って水質測定を行い、別府温泉の泉質の多様性について理解を深める。</p> <p>6 別府温泉の魅力、温泉活用法を学ぶ……⑪⑫齊藤雅樹 温泉から見た別府の位置づけと特徴、天然資源としての温泉の活用方法について、近年注目されている機能温泉浴などの多様な入浴様式などの事例を学ぶ。また、温泉地の振興策として温泉道スタンプラリー、温泉マイスター養成、湯けむり発電事業などの新たな取り組みについても学び、これからの温泉地振興のための施策について考える。</p> <p>7 温泉と健康を学ぶ……宮崎博文⑬⑭ ヨーロッパで発達した温泉療法の歴史を日本との比較でとらえ、温泉療法が身体にもたらす効能・効果の生理学的メカニズム及び泉質の違いによる適応症・禁忌症を学ぶ。また、近年問題となったレジオネラ症などの温泉の公衆衛生についても学び、安全で安心して利用できる温泉の在り方を考える。</p> <p>8 温泉学の概要 (まとめ) ⑮……由佐悠紀 温泉の諸科学についての基本的事項や大分県の温泉、特に別府温泉についての知見や人々の取り組みの様子について、これまでの学習成果をもとに意見交換をし、授業のまとめをする。また、受講した事柄の理解を確認するためにレポートを書く。</p>					
認定試験	実施しない				
準備学習 (予習・復習)	<p>受講生がこれまで見たり体験してきた温泉に関する知見をあらかじめ整理しておくことにより講義への関心が高まる。</p> <p>また、温泉学を受講後、温泉に関する実践的な知識について受講生自ら実際に温泉地において体得して講義内容を再確認すれば、学習内容の理解が深まる。</p>				
評価方法	授業中の態度・積極性 (70%)、レポート・課題への対応 (30%)				

基準	S:到達目標を十分に理解できる A:到達目標を理解できる B:到達目標を概ね理解できる C:到達目標を理解できるように努めている		
テキスト	講師が配布したテキストを用いる。	オフィスアワー	授業時間の前後に教室で対応する。 なお、集中講義のため時間が取れない場合は、講師がE-メール等で対応する。
参考資料教材等	講義の中で必要に応じて参考文献や参考となるウェブページなどを紹介する。	フィードバック	授業レポートを添削・返却し要点等を授業で確認する
備考			

開設部局	ライフデザイン総合学科	科目名	温泉コンシェルジュ演習	担当教員名	安達 美和子
シラバスID	LS246326	共同担当教員名	別府市観光協会、ツーリズムお おいた、大塚大輔（オムニバ ス）	単位数	2 / 演習
科目ID	LS1664010016	受講対象	ラ留2	授業形態	複数
開講期	集中	学びの三要素	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input checked="" type="checkbox"/> 主体性・意欲 <input checked="" type="checkbox"/> 就業力・協働		

アクティブラーニングの要素を含んでいるか		<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
<input checked="" type="checkbox"/> PBL（課題解決型学習）	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、討論、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション、発表	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 実験、実技	
反転授業…知識修得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態			

**科目の到達目標**

- ①（別府）温泉コンシェルジュに必要な知識や資質・能力を説明できる。
- ②「おすすめの別府案内」プログラムが提案できる。
- ③「おすすめのはしご湯」機能浴が提案できる。
- ④他人の話に耳をよく傾け、適切な対応をしようと心がけることができる。
- ⑤顧客や職場等を理解し、多様な価値観を受容する心がけができる。

**授業の目的・概要**

「温泉コンシェルジュ修了証取得の為の必修科目」

温泉コンシェルジュに求められるものは、総合的な案内を通して顧客のニーズに最大限に対応するための現場の状況を認知し、顧客のニーズに適切に対応することです。その知識を身につけた人材が各職場に存在することが求められます。

本授業は、他の授業で学んだ様々な知識や演習をとおして、実感として学び、身につけた感覚で顧客へ提供できる知識と能力を養うものです。「まち歩き」や「温泉巡り」の体験、観光施設、レストラン、宿泊施設、交通、広域観光等を体系的な知識として学び、実際に別府を訪れるお客様を対象とした現場での実践を行い、様々な目的を持った顧客に対してのコミュニケーション能力と提案能力の習得を目的とします。

**ディプロマポリシーとの関係**

心と体の健康・癒しのために長期的またはリピーターとして訪れたいようなプログラムをプロデュースできる授業

**授業計画**

--	--



1. 30時間の授業スケジュールと到達目標の説明
2. 別府・大分県の観光を知る（座学）
  - …別府市内の観光素材（別府市内の観光施設・宿泊・グルメ・イベント・交通などの観光関係）
  - ・宿泊施設のバリエーション（杉乃井ホテル・スタンダードホテル・旅館・民宿・湯治宿・ビジネスホテル・ゲストハウスなど）
  - ・グルメ とり天、冷麺、プリン、関アジ・関サバ、フグ、焼肉など
  - ・亀の井バス（グルスバ）、大分交通、定期観光バス、観光タクシー
3. 別府・大分県の観光を知る（座学）
  - …別府市の観光振興の方向性
4. 別府・大分県の観光を知る（座学）
  - …大分県内の観光素材（大分県内の観光施設・グルメ・交通などの観光関係）
  - 日本一の「おんせん県」大分県の観光情報・おすすめ観光スポット・温泉情報
  - 着地型観光と各種ツーリズムの取組
5. 別府・大分県の観光を知る（座学）
  - …大分県の観光振興の方向性（MICE・DMO）
  - 国内外からの観光客や海外への観光誘致などの取組
6. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …アプリの機能を知り、活用方法をマスターする
  - …英語の発音と顧客へのおもてなしと観光案内
7. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …英語で顧客へのおもてなしと観光案内の疑似体験トレーニング
8. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …韓国語の発音と顧客へのおもてなしと観光案内
9. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …韓国語で顧客へのおもてなしと観光案内の疑似体験トレーニング
10. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …中国語の発音と顧客へのおもてなしと観光案内
11. 「温泉八湯 おもてなし事典」の活用法（座学）
  - …中国語で顧客へのおもてなしと観光案内の疑似体験トレーニング
12. まち歩き・温泉巡り体験と施設演習に対する事前学習（座学）
  - …「おすすめのまち歩き」「おすすめのはしご湯」のレポート作成について説明
13. まち歩き・温泉巡り体験と施設演習に対する事前学習（座学9）
  - …温泉コンシェルジュ修了者によるアドバイス
14. 15. 16. 17. まち歩き体験（演習）
  - …まち歩きのコースをボランティアガイドに案内してもらい体験する。
  - …ガイドさんからガイドのことや街のこと、参加して下さるお客様へのヒアリング
  - …おすすめのまち歩きをグループで提案できるようにまとめる。
18. 19. 20. 21. 温泉巡り体験（演習）
  - …スパポートを活用し8湯巡って温泉道初段を取得
  - …別府でお客様を惹きつけるものの代表格である温泉を実体験し、観光客を集める魅力を体感する
  - …機能温泉浴を活用した地域の温泉巡り
  - …1湯目できりきれいにシャンプー効果があるといわれる明礬温泉から2湯目にしっとり保湿リンス効果があるといわれる鉄輪温泉や別府北浜湯めぐりや温泉本、温泉カルテを利用し、体感し、機能浴を活用した「はしご湯のすすめ」体感レポートをまとめる。
22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 観光現場での案内（演習）
  - …地獄蒸し工房鉄輪の特設案内スペースと亀の井バス鉄輪待合所において案内業務を行う。
  - …4人1チームに分かれ、2人ずつ交代で顧客への案内を行う。
  - …伝統工芸、竹細工の体験
  - …実際に別府を訪れるお客様を対象とした現場での実践を行い、様々な目的を持った顧客に対してのコミュニケーション能力と提案能力の習得を図る。
  - …案内をする際、お客様に対応するきっかけづくりとして、「別府（鉄輪温泉郷）を訪れた旅の動機や温泉、地域の魅力に対する聞き取り調査シート」を活用し、適切な観光案内ができる技術を身に付ける。
  - …「施設演習の記録」を活用して、自分自身の学び（実習の目的）を明確にし、事前準備、協議、実践、振り返りをして、各回の反省を踏まえてタームを重ねる毎に、温泉コンシェルジュとしての資質を高める。
  - …鉄輪の手書きの簡易なご案内MAP（もしくは資料）を作成し、実践を行う。
30. ふりかえり（まとめ）
  - …プレゼンテーション
  - プレゼンテーションでは、案内業務の実践を踏まえて、別府のまちを満喫したい！おすすめコースを紹介し別府観光の魅力を伝える内容とします。訪問先となる関係者にも参加してもらい、意見や感想を出し合います。

筆記試験なし

認定試験	実施しない
準備学習（予習・復習）	独自に現地を見学したり、資料を収集したりファイル化したりしなければなりません。その積み重ねがプレゼンテーションや最終レポート作成に必要です。
評価方法	①授業時の課題対応：レポートや学習課題への対応：30%②専門性：関係者での模擬接客：40% ③グループによるプレゼンテーション：30% 総合評価
基準	S:到達目標を十分理解している A:到達目標を理解できる B:到達目標を概ね理解できる C:到達目標を理解できるように努めている

テキスト	プリント使用 おすすめのまち歩きレポート おすすめのはしご湯レポート 演習の記録	オフィスアワー	授業時間の前後に教室にて対応します
参考資料教材等	別府市のガイドブック、温泉本、ホームページ、別府八湯おもてなし事典	フィードバック	授業レポートを添削・返却し要点等を授業で確認する
備考			

令和6年度「おおいた地域連携プラットフォーム」単位互換科目のシラバスについて

機関名	大分工業高等専門学校
-----	------------

(2)単位互換科目のシラバスをご提出ください。(シラバスを提出いただいた場合は、この様式は記入不要です。)  
シラバスが未確定の場合は、【記入例】を参考に下記の表②へ記入のうえご提出ください。(後日、シラバスが確定されましたら、シラバスそのもののご提出もお願いいたします。)

【表②】

科目名	授業の概要 *100文字程度	この科目は、県や国や企業において農業生産物の生産・管理・加工を担当している教員あるいは担当していた教員が、その経験を活かし、工業技術者のための農学概論についてオムニバス方式で授業を行うものである。
農学概論	授業計画	1週 農学と工学(高木浩一) 農業とは、その歴史、循環、農業生産概観。 2週 農学を学ぶための生物基礎(中川裕子) 農学を学ぶための生物基礎の理解。 3週 植物の生理と生産(鈴木健策) 光合成、呼吸、環境、植物の成長と分化。 4週 土壌と肥料(菅野均志) 土壌の三相構造、肥料、微生物、土壌管理。 5週 栽培管理(藤尾拓也) 生育と環境管理、病害虫、植物工場。 6週 稲作とお米(黒田栄喜) 稲の一生、栽培技術の変遷と機械化、食味と用途 7週 園芸作物と生産(山口健一) 園芸植物分類、蔬菜、果樹、花卉、栽培。 8週 播種と育苗(長江嗣朗) 園芸植物の繁殖と育種、種子、播種、育苗。 9週 農産物の貯蔵・加工・流通(小出章二) 穀物、青果物の貯蔵・加工・流通、LCA。 10週 畜産と食(佐藤れえ子) 畜産と食、種類、鮮度、加工と安全、流通。 11週 水産物と食(袁春紅) 水産物の種類、漁業、養殖、加工、流通。 12週 食品の安全と食品加工(折笠貴寛) 食品の種類性質、機能、加工、殺菌、安全。 13週 バイオ操作(中川裕子) 育種、組織培養。 14週 バイオ操作(坂本裕一)、総論まとめ(高木浩一) 微生物、きのこ培養、総論とまとめふりかえり。 15週 前期期末試験到達目標(1)(2)(3) 16週 前期期末試験の解答と解説
	成績評価	試験と課題で評価する。総合評価＝定期試験の成績×0.3＋課題平均点×0.7
	到達目標(学ぶ内容)	(1)農業と工学の関係を理解する。(課題、定期試験) (2)農業生産物の生産、管理、加工、流通、安全について理解する。(課題、定期試験) (3)いきものづくりについて、技術者の観点から概観できる。(課題、定期試験)

科目名	授業の概要 *100文字程度	この科目は、企業にて環境分野の研究開発を担当していた教員が、その経験を活かし、さまざまな地球環境問題について講義形式で授業を行い、かつグループ討議とその結果をプレゼンテーションする。
環境化学	授業計画	<p>1週 環境化学についてのガイダンス、環境分野の知識の必要性 環境化学について、本校の教育目標の中での位置づけ、単位の取得法などについてオリエンテーションを行う。また、なぜ環境化学を学ぶ必要があるのかについて解説する。</p> <p>2週 地球温暖化その1 地球温暖化のメカニズムと原因について理解する</p> <p>3週 地球温暖化その2 地球温暖化による影響について説明できるようになる</p> <p>4週 地球温暖化その3 地球温暖化の対策について理解する</p> <p>5週 オゾン層破壊 オゾン層破壊の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる</p> <p>6週 人口・食料問題 人口・食料問題の現状と課題について理解する</p> <p>7週 グループ討議とPPT作成 異分野の学生間での討議スキルを学びプレゼンテーション用資料作成方法を習得する</p> <p>8週 酸性雨と森林破壊, 砂漠化 酸性雨と森林破壊, 砂漠化のメカニズムと現状について理解する</p> <p>9週 (前期中間試験)グループ単位でのプレゼンテーション PPTによるプレゼンテーションスキルを身につける</p> <p>10週 海洋汚染問題 海洋汚染問題の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる</p> <p>11週 水問題 水問題の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる</p> <p>12週 ゴミ問題 ゴミ問題のメカニズムと現状について説明できるようになる</p> <p>13週 開発途上国の実態 開発途上国の実態に関する問題の現状について説明できるようになる</p> <p>14週 グループ討議とPPT作成 異分野の学生間での討議スキルを学びプレゼンテーション用資料作成方法を習得する</p> <p>15週 (前期期末試験)グループ単位でのプレゼンテーション PPTによるプレゼンテーションスキルを身につける</p> <p>16週 総合解説 課題に対してのプレゼンテーションの中でわからなかった箇所を理解する。</p>
	成績評価	2回の課題(プレゼンテーション)の平均点
	到達目標(学ぶ内容)	<p>(1)化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を抱くことができる。(課題評価)</p> <p>(2)化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を議論できる。(課題評価)</p> <p>(3)化学物質の循環、越境および管理について理解することができる。(課題評価)</p>